

## 準絶滅危惧 (NT)

ヒカゲノカズラ科

# ミズスギ

*Lycopodium cernuum* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内では生育地・個体数とも少ない。

### 概要

匍匐する茎は長く這い、ところどころで直立した茎を出す。直立茎は分枝して樹木状になる。小枝の葉は線状披針形で全縁。胞子嚢穂は小枝の先に1-2個頂生し、卵形で長さ3-10mm、径2.5-3mmで下向きにつく。

本州(伊豆諸島・伊豆半島・東海地方以西の暖地)・四国・九州・南西諸島・小笠原に生育し、石川・富山・長野・神奈川・東北・北海道でも限られた場所に生育する。世界の熱帯・亜熱帯に分布する。やや湿った向陽の地に生じる。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp.株式会社学研プラス.東京  
岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社.東京  
松村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

県西部では産地・個体数とも若干多いが、東部の分布は限られており、隠岐諸島での分布は知られていない。池の土手や明るい斜面などに生育するのが知られている。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ハナヤスリ科

# ナツノハナワラビ

*Botrychium virginianum* (L.) Sw.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県下で個体数が少ない。

### 概要

山地林下に生じる夏緑性のシダで、葉は高さ25-75cm、担葉体の長さは15-35cmで、ふつう葉の高さの半分をこえ、ほとんど無毛。栄養葉は無柄で3-4羽状に細裂し、広い五角形状で基部は切形からやや心形。胞子穂は3-4回羽状に分岐する。北海道から九州北部までの各地に生育し、国外では北半球の温帯から暖帯にかけてと、中南米に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp.株式会社学研プラス.東京  
岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社.東京  
松村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐を含めた各地に産地が点在する。やや陰湿な山地の林床に生育する。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ハナヤスリ科

## コヒロハハナヤスリ

*Ophioglossum petiolatum* Hook.

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)

## 島根県固有評価

—

## 環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



## 選定理由

県下での生息地は少なく、稀である。

## 概要

高さ8-25cmの葉を1~3枚出し、担葉体は長さ2-10cm、栄養葉は長楕円形から広卵形、鋭頭から鈍頭、長さ1-6cm、幅0.7-3cm、うすい緑色。孢子穂は長さ2-4.5cmで鋭頭である。本州(東北地方南部)~南西諸島の各地で路傍、林下や集落内に見られ、しばしば群生する。国外では熱帯から暖帯の各地に広く分布している。

## 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

## 県内での生育地域・生育環境

東部と西部の低地に生育する場所がある。全域での詳細は不明だが、生育地は少ないものと考えられる。寺院・神社の境内や庭など身近な環境に生育する。隠岐に分布するとする報告もあるが、確認できていない。

## 存続を脅かす原因

除草剤散布。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ゼンマイ科

## ヤシャゼンマイ

*Osmunda lancea* Thunb.

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)

## 島根県固有評価

—

## 環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 自然環境課



## 選定理由

生育地が渓谷の岩場と限定され、生育する環境が少なく、個体数も多くはない。

## 概要

溪流沿いの水しびぎがかかるような場所に生じる夏緑性のシダであり、ゼンマイより小型である。栄養葉は同じく2回羽状複葉であるが、小羽片の形が細く、卵状楕円形であること、基部の形が切型に対して、鋭形からくさび形であることで区別できる。国内では北海道南部から九州東部にかけて広く見られる。日本の固有種である。

## 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

## 県内での生育地域・生育環境

県内では、隠岐諸島を除く溪流沿いに見られるが、とくに西部では比較的生育地は多い。

## 存続を脅かす原因

河川改修、土砂堆積。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

コケシノブ科

## ウチワゴケ

*Crepidomanes minutum* (Bl.) K.Iwats.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 自然環境課

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内では生育地が少なく、個体群に限られている。

## 概要

岩上、樹幹などに群生し、常緑性の小型のシダである。葉身はうちわ形で長さ7-15mmで胞子嚢群は葉縁につく。国内では北海道から南西諸島・小笠原まで生育し、北部ではややまれのようである。

## 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

## 県内での生育地域・生育環境

隠岐を含めた県内各地に若干の生育地がある。湿度の高い谷間などの林下の岩上や樹幹に生育する。

## 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

コバノイシカグマ科

## イシカグマ

*Microlepia strigosa* (Thunb.) Presl

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



## 選定理由

個体数が少なく、日本海側での分布の北限となる。

## 概要

常緑性で、根茎は長く匍匐し、葉柄は密に毛をつける。葉は2回羽状複生でかための黄緑色をしている。胞子嚢群は小葉の辺縁近くにつく。本州(千葉県南部・伊豆諸島・伊豆半島から西にかけての海岸沿い)・四国・九州・南西諸島・小笠原で、国外ではヒマラヤ・スリランカからポリネシアにかけての旧世界の熱帯・亜熱帯に広く分布する。

## 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

## 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで各地に点々と分布し、日本海側での北限となる。西部では生育地が点在するが、東部ではきわめてまれである。海岸近くのやや乾燥した斜面や林床に生育する。

## 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

コバノイシカグマ科

# オオフジシダ

*Monachosorum flagellare* (Maxim.ex Makino) Hayata

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内では自生地・個体数ともに少ない。

### 概要

地上生または岩上生の常緑のシダで、根茎は短く斜上し、葉は三角状広披針形で葉は薄く、鮮緑色、2-3回羽状複生する。胞子嚢群は裂片の辺縁からすこし内側に寄ってつく。本州(栃木県および中部地方以西)・四国・九州で暖地の林下に生じる。国外では中国に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 秋村喜則 (1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

県西部の山地の陰湿な林下に若干の生育地が見られる。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

イノモトソウ科

# シシラン

*Vittaria flexuosa* Fee

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

産地・個体数ともに少ない。国内での自生の北限を構成している。

### 概要

常緑性で、根茎は短く匍匐し、葉を密につけ、葉は革質、線状で長さ15-45cm、幅4-8mm程度である。胞子嚢群は辺縁に近い葉裏の溝に生じる。関東地方以西から琉球にかけての暖地の山林中の岩上や樹幹に着生する。国外では朝鮮半島・ヒマラヤからマレーシアにかけて分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2016) 「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 丸山 巖 (1982) タキミシダ. 島根県大百科事典編集委員会・山陰中央新報開発局、島根県大百科事典下巻、山陰中央新報 p.40  
 島根県 (1960) 1.隠岐島・島根半島・三瓶山産植物目録、島根県編 国立公園候補地基本調査 隠岐島・島根半島・三瓶山、島根県 130-184  
 秋村喜則 (1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部や中部では比較的産地はあるが、東部には非常に少ない。隠岐での記録は丸山 巖による記載の島根県(1960)が原記載と考えられるが、島根県大百科事典のタキミシダの項目では「シシランは出雲、石見両部に生育」との内容しかなく不明な点が多い。山地の林下の岩に群生して着生している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、土砂の堆積、採集。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

チャセンシダ科

## ホウビシダ

*Asplenium hondoense* Murakami et Hatanaka

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



## ■ 選定理由

県内では個体数が少なく、国内での分布の北限を形成している。

## ■ 概要

常緑性の小型のシダで、根茎は長くのび、葉軸は赤褐色から黒褐色で光沢がある。葉は単羽状で披針形から長楕円状披針形。胞子嚢群は裂片の中肋近くにつく。本州(石川県・千葉県以西)・四国・九州で溪流近くの湿った岩上に生じる。国外では韓国(済州島)と中国に分布する。

## ● 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 澤田達也(2024)島根県雲南市大東町にてホウビシダを確認。島根植物研究会会報46:5  
 松村喜則(1997)島根のシダ植物相。ホシザキグリーン財団研究報告1:221-232

## ■ 県内での生育地域・生育環境

西部には点々と産地が知られるが、東部での分布は少ない。陰湿な谷部の湿った岩壁に群生する。

## ■ 存続を脅かす原因

森林伐採、土砂の堆積。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

チャセンシダ科

## コバノヒノキシダ

*Asplenium sarelii* Hook.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



## ■ 選定理由

生育地・個体数ともに少ない。

## ■ 概要

常緑性の小型のシダであり、葉を叢生する。葉身は2-3回羽状複生し、広披針形から長楕円形で、下部の羽片がやや短くなる。胞子嚢群は裂片に1-3個互いに接近してつく。本州(東北地方南部以西)・四国・九州で明るい山野や路傍の岩上や石垣上に生じる。

## ● 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京

## ■ 県内での生育地域・生育環境

以前は東部の川沿いの岩角地の岩上に生育しているのが知られていたただけであったが、近年は石垣やコンクリート崖での生育が知られるようになり、県内に10箇所程度の産地が報告されている。場所によってはコンクリートの崖に群生しているところもある。胞子が飛来し、生育適地として繁殖したとの印象をもつ。

## ■ 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

チャセンシダ科

# クルマシダ

*Asplenium wrightii* Eaton ex Hook.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地が少なく、国内での分布の北限を形成している。

### 概要

常緑性で根茎は斜上し、葉を叢生する。葉身は単羽状複生で広披針形、濃緑色。葉質は厚く、軟らかい。羽片は10-20対で披針形でやや鎌状になる。孢子嚢は線形で長い。本州(伊豆半島・東海以西)・四国・九州に分布し、山林中の比較的湿った地上やまれに岩上に生じる。国外では、朝鮮半島・台湾・中国・インドシナとフィリピンに産する。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 澤江 宏・篠原良夫(2005)益田市に自生するシダ植物(6). 島根植物研究会会報8:14  
 杵村喜則(1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

県西部に数カ所群生地が知られている。林下の土壌のやや堆積した湿った斜面に生育する。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

シシガシラ科

# オオカグマ

*Woodwardia japonica* (L.fil.) Sm.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

産地が限られ、国内での分布の北限を形成している。

### 概要

常緑性で、根茎は太く、斜上から横走し、葉を叢生する。葉身は狭長楕円形から卵状披針形で2回羽状中裂する。孢子嚢は羽片の裂片の中肋に沿って並ぶ。紀伊半島から中国地方西部・四国・九州の平地から低山地のやや乾燥した林下に生じる。国外では韓国(済州島)・台湾・中国・ビルマ・インドシナに分布する。

#### 参考文献

海老原 淳(2016)「日本産シダ植物標準図鑑1」.475pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男(1992)「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之(1992)「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 杵村喜則(1997) 島根のシダ植物相. ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

西部にいくつかの産地が知られており、低地のやや乾燥した林下に稀に生育している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

メシダ科

## ミヤコイヌワラビ

*Athyrium frangulum* Tagawa

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 澤田達也

## 島根県固有評価

-

## 環境省カテゴリー

-



## 選定理由

産地・個体数とも多くない。

## 概要

夏緑性で、全体にみずみずしい印象をうける。根茎は直立し、葉を叢生する。葉柄は緑色またはやや紫かかり、葉身は卵形から楕円形で3回羽状に複生する。羽辺は斜めにつき、柄が長い。胞子嚢群は中肋近くにつき、鉤形のものが多い。本州（関東地方以西）・四国・九州に分布し、山地の川沿いの多湿な林床に生じる。

## 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

## 県内での生育地域・生育環境

産地は西部の山地に限られ、川沿いの杉林林床などの陰湿な地に点々と確認される。県下では生育時、葉軸が紫色を帯びずに緑色のままのダンドイヌワラビ *A. frangulum f. viride* Sa.Kurataとよばれる型が多い。東部での報告もあるが、確認できた標本はいずれも他の種に該当するものであった。

## 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

メシダ科

## ハコネシケチシダ

*Comopteris christenseniana* (Koidz.) Tagawa

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

## 島根県固有評価

-

## 環境省カテゴリー

-



## 選定理由

産地が少なく、とても希少である。

## 概要

夏緑性で根茎は這う。葉柄は淡緑色でわずかに赤紫色を帯びる。葉身は三角状から楕円形で3回羽状深裂する。裂片は長楕円形胞子嚢群は長楕円形から線形で、裂片の中肋と辺縁の中間生。本州・四国・九州に点在し、山地の湿った林中の林床に生じる。

## 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

## 県内での生育地域・生育環境

東部の山中に1ヵ所産地が知られている。冷温帯林下に生育し、やや群生している。

## 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

オシダ科

# シラネワラビ

*Dryopteris expansa* (C.Presl) Freser-Jenket Jermy

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地・個体数ともに少ない。

### 概要

夏緑性のシダ植物で、根茎は太く、斜上し、匍匐枝を出す。葉は基部から叢生し、葉柄は10—40cm、ワラ色、葉身は5角形に近い長楕円状卵形で、長さ20—60cm、幅15—35cmで3回羽状深裂～全裂。中軸や羽片に薄い鱗片がある。羽片には短い柄があるか無柄。小羽片は長楕円状披針形。裂片は幅2—4cmで先が尾状にのびる長い芒がある。孢子嚢群は裂片の中肋と辺縁の中間につく。国内では北海道から九州する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 村村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで分布している。中国山地沿いのブナ帯の林下にまれに生育している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

オシダ科

# ハチジョウベニシダ

*Dryopteris caudipinna* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

低地の社寺林などの森林がよく保存された環境に残存する植物で、そのような環境はあまり残されていないことから、生育地が少なく、希少な植物である。

### 概要

ベニシダに似た常緑のシダで、小羽片が線状披針形から線形で細く、多少鎌状に曲がる。孢子嚢群は小型でやや密生してつく。ベニシダは3倍体無融合生殖であるが、ハチジョウベニシダは二倍体有性生殖種である。神奈川県南部・伊豆半島・伊豆諸島に知られていたが、九州南部に知られ、島根県に分布することが気づかれてから、日本海側の自生が注意されるようになった。現在は山口県から福井県まで分布が知られている。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 村村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島や東部の沿岸域においては各地に生育が知られている。中部や西部でも形態からこれに相当する個体も見られるが、孢子数の確認等十分な検証が行われていない状況である。丘陵域の保存状態のよい社寺林などの照葉樹林下に生育している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、下草刈り。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

オシダ科

# ギフベニシダ

*Dryopteris kinkiensis* Koidz. ex Tagawa

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

生息地は少なく、また個体数もわずかである。

### 概要

常緑のシダ植物で、根茎は斜上する。葉柄や中軸の鱗片は暗褐色でまばらにつく。葉身は卵状長楕円形で幅がせまく、小羽片は大きいものは中裂する。葉質は厚い紙質で、胞子嚢群は中肋よりからやや辺縁よりとつき方は様々である。包膜は全縁。国内では(宮城県・千葉県以西)・四国・九州に分布し、朝鮮半島・中国に見られる。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

生息地は少なく、また個体数もわずかである。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

オシダ科

# ミヤマベニシダ

*Dryopteris monticola* (Makino) C.Chr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

生息地は少なく、また個体数も多くない。

### 概要

夏緑性のシダ植物で、根茎は短く横走する。葉柄は葉身より短く、20—50cm。狭披針形から長卵形で先の尖る茶褐色から濃褐色の鱗片をまばらにつける。葉身は楕円状卵形から長楕円形で、2回羽状深裂から全裂し、長さ50—80cm、幅20—25cmになる。羽片は線状披針形で幅2—3cmで基部は切形、短い柄があり、羽状に深裂から全裂する。裂片は長楕円状披針形で鈍頭から円頭。葉質はやや厚い紙質で、胞子嚢群は裂片の中肋よりを1列に並び、包膜は全縁。国内では北海道・本州(北から中国地方北東部まで)、四国と宮崎県でもわずかに報告されている。国外では朝鮮半島・中国(東北部)・ソビエト東部に見られる。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

東部で生育が見られ、中国山地の稜線や、近くの斜面などの林下に生育している。県内での生育は本州での南西限界となる。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

オシダ科

# タニヘゴ

*Dryopteris tokyoensis* (Makino) C.Chr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):青木充之



### 選定理由

県内では産地が少なく、個体数も多くない。また生息環境が限定され、環境が変化しやすく絶滅が心配される立地に生育する。

### 概要

夏緑性のシダで根茎は短く直立し、葉を叢生する。葉柄は短く、葉身は大きいものは1m近くなり、単羽状複生で、倒披針形。羽片は線形から線状披針形で、下部のものはしだいに小さくなり、最下のは2-4cmまでになる。また表面では葉脈の溝ははっきりくぼんでいる。胞子嚢群は葉身の先端部につき、裂片の中肋寄りに1-2列に並んでつく。国内では北海道から九州の明るい湿地に生育し、朝鮮半島や中国に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで報告されている。山域の湿原やため池周辺部での生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移、乾燥化。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ウラボシ科

# ヒメサジラン

*Loxogramme graminoides* (Bak.) C.Chr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

生育地が限られ、個体数も少ない。

### 概要

常緑性の小型のシダで、根茎は長く這う。葉は倒卵形で先端に近いところの幅が最大になり、暗緑色。胞子嚢群は長楕円形から線形で葉の上半部で中肋に近く、ほぼ平行してつく。北海道から屋久島にかけて広く分布するが北ではまれのものである。深山の岩上に生じる。国外では朝鮮半島・台湾・中国に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp.株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部の丘陵域から山域にかけて産地は点在する。林中の岩上に生育し、ときに群生して広く広がることもある。また、島後に生育していたとする情報がある。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、採集。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ウラボシ科

# カラクサシダ

*Pleurosoriopsis makinoi* (Maxim.ex Makino) Fomin

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

産地・個体数ともに少ない。

### 概要

非常に小型のシダで、根茎は長く、コケの間に匍匐し、葉身は長さ1.5-7cmの小型の葉をつける。両面は褐色の毛をつけ、深緑色。孢子嚢群は裂片の裏面に広がる。北海道から九州にかけての各地で、山中の岩上や樹幹につき、湿ったコケの中にある。国外ではシベリア東部と中国・朝鮮半島に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 中池敏之 (1992) 「新日本植物誌シダ篇」.868pp.至文堂,東京  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)を含め、東部から西部の丘陵域から山域に点在して見られるが、特に西部のブナの樹幹では比較的多く確認される。空中湿度の高い場所の岩上や樹幹にコケに混じって生育している。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ウラボシ科

# アオネカズラ

*Polypodium niponicum* Mett.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

生育地・個体数ともに少ない。

### 概要

夏に落葉する冬緑性のシダで、根茎は長く伸びる。葉身は広披針形から卵状長楕円形で側列片は15-25対あり、葉質は厚く、やわらかい。表はまばらに裏面はやや密に開出毛がある。孢子嚢群は中肋近くにつき大きい。本州(富山県・関東地方西部以西)・四国・九州で低山地の樹幹や岩上に着生し、暖地に多い。国外では中国南部に分布する。

#### 参考文献

海老原 淳 (2017) 「日本産シダ植物標準図鑑Ⅱ」.507pp. 株式会社学研プラス,東京  
 岩槻邦男 (1992) 「日本の野生植物シダ」.311pp.平凡社,東京  
 倉田 悟・中池敏之 (1981) 「日本のシダ植物図鑑2」.648pp.東京大学出版会  
 松村喜則 (1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部の丘陵域の樹幹や岩上に着生しているのが知られる。西部や中部では産地は点在しているが、東部では稀となる。隠岐(島後)での生育も報告され、標本もある。

### 存続を脅かす原因

特徴的な姿から観賞用に採集される場合も多いと考えられる。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

マツ科

# ヒメコマツ

*Pinus parviflora* Siebold et Zucc. var. *parviflora*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内では限られた場所に生育し、個体数も少ない。

### 概要

常緑針葉樹で樹高は30—35mになるが、成長は遅い。樹皮は暗灰色や暗赤褐色で粗く裂け、成長するとうろこ状に剥がれ落ちる。若い枝は褐色で有毛。葉は青みを帯びた緑色で、長さ3cmの針状で短枝に5個ずつ束になって生える。花は5—6月で同じ株に雄花と雌花は別につける。球果は2年目の秋に熟し、大きさは3—5cmの卵形で、緑から茶色にかわる。種子は大きさ1cmほどで2—10mmほどの翼をもつ。また、冬芽の先端が尖る。分布として、本州中部以南、四国、九州の山地の尾根筋や急斜面に生育する。変種関係にあるキタゴヨウ var. *pentaphylla* は中部以北に分布し、全体に大きく葉が5—6cm、球果が6—8cmになる。また、冬芽の先が丸い。さらに毬果の鱗片がヒメコマツは乾いても内側に曲ったままなのに対し、キタゴヨウでは完全に開くとされる。

#### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
大井次三郎著・北川政夫改訂(1992)「新日本植物誌顕花植物編」.1716pp.至文堂,東京  
松村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館会報3:1-49 三瓶自然館, 島根

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と西部に生育している。山地の岩場ややせた尾根などに生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ヒノキ科

# クロベ

*Thuja standishii* (Gordon) Carr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(西限)

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。本来はより北方の寒冷地に分布する植物であるため、分布的に稀な種でもある。

### 概要

山地に生える常緑高木の針葉樹である。大きなものでは高さ約30m、直径約1mを越える。樹冠は円錐形で、樹皮は赤褐色で薄くはがれる。葉は鱗片状で十字対生する。ヒノキに似ているが、より厚みがあり表裏の区別が明らかで、葉裏に灰白色の気孔群があることなどの違いがある。雌雄同株で花期は5月、小枝の先に花をつける。材は建築、船舶、家具、器具などに用いられ、木曾五木のひとつとされる。別名ネズコと呼ばれる。本州、四国に分布するが、中部地方以北に多い。

#### 参考文献

井上雅仁・三島秀夫・深谷 治・八幡浩二・野辺一寛(2019) 隠岐諸島における北方系植物数種の分布について. 島根県立三瓶自然館研究報告 17: 37-43.  
大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科. 666pp. 平凡社, 東京.  
松村喜則(2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
丹後亜興(2022) 隠岐の西限植物. 隠岐の文化財 39: 6-14.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)と県東部(出雲市)で確認されている。生育環境は、隠岐島後では山地の露岩地や、海岸沿いの岩角地などである。県東部では主に稜線沿いや山中に生育している。隠岐島前の西ノ島町の山中でも少数あったとされるが、現在は見られないようである。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆: 井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

イチイ科

# カヤ

*Torreya nucifera* (L.) Siebold et Zucc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

### 概要

常緑針葉樹で高さ20m、径1m以上の大木になる樹種。樹皮は灰褐色～褐色で縦に裂け、薄皮が細長くはげる。葉は線形で長さ2～3cm、幅2～3mm、先端は鋭くとがり、硬い。雌雄異株とされ、花期は春で、種子は翌年の秋に熟れる。種子は緑色の仮種皮に包まれて、後に紫褐色に熟れる。材はさわめて有用であり、碁盤、将棋盤に利用されてよく知られる樹種である。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町、知夫村)、県東部(松江市、出雲市)、県中部(美郷町)、県西部(浜田市、吉賀町)の山地の一部に存在する。山地の尾根筋や露岩状の痩せた土地に生育する。

### 存続を脅かす原因

生育地での樹林伐開や、樹木の伐倒。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

スイレン科

# コウホネ

*Nuphar japonica* DC.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):—



### 選定理由

全国的には普通種であるが、県内では溜池の管理不足や河川の改修によって自生地が減少している。

### 概要

全国各地の湖沼、溜池、水路などに生育する抽水植物。根茎は太い海綿質で葉柄筋が目立ち、先端部から葉を展開する。異形葉を持ち、沈水(水中)葉は膜質で淡緑色、浮葉と気中葉は肉質で光沢がある。黄色の花は直径5～7cm、球形の果実は水中で結実・裂開し、仮種皮に被われた径5mmほどの種子を分散する。流水中では沈水葉だけの群落を形成することがある。

#### 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草. 326pp. 文一総合出版. 東京.

### 県内での生育地域・生育環境

溜池及び小河川。

### 存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足と河川改修によるコンクリート化。

(執筆者: 國井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

ドクダミ科

# ハンゲショウ

*Saururus chinensis* (Lour.) Baill.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団



### 選定理由

県内での生育地は、遷移によって消滅することが多い。

### 概要

暖地の水湿地に生えるやや大型の多年草。地中に太い地下茎があって、茎は高さ50—100cm。長さ5—15cmの卵形—狭卵形の葉を互生する。6—8月に花が咲く。花序は総状で長さ10—15cmで、茎の上部の葉に対生するようにつく。開花期には花序がつく茎の上部の葉は下半部が白くなり、目立つ特徴である。花は小さく、両性だが花弁はない。本州、四国、九州、南西諸島から中国、フィリピンにかけて分布する。

#### 参考文献

井上雅仁(編)(2014) 杵村喜則氏収集植物標本目録(II)。207pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団。大田。  
井上雅仁(編)(2020) 杵村喜則氏収集植物標本目録(III)。205pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団。大田。  
三浦憲人(2020) 島根県産植物の染色体観察記録(5)。ホシザキグリーン財団研究報告。(23): 47-51。  
松江の花図鑑[https://matsue-hana.com/hana/kanokosou.html#google\\_vignette](https://matsue-hana.com/hana/kanokosou.html#google_vignette)

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)を含めて東部から西部の低地から丘陵域にかけて点々と生育が報告されている。多くは溜池の縁に生え、群生するが、近年では休耕田が一時的な生育地として見られることもある。

(松江市島根町多古沖泊、松江市美保関町森山伊宗ヶ谷、松江市東出雲町内馬、松江市鹿島町手結、益田市喜阿弥町、隠岐郡都万村都万、出雲市西神西町、松江市東忌部町、松江市新庄町、松江市玉湯町)

### 存続を脅かす原因

溜池の管理放棄、休耕田などの生育地での遷移による環境変化。

(執筆者:三浦 憲人・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ウマノスズクサ科

# サンヨウアオイ

*Heterotropa hexaloba* (F. Maek.) F. Maek.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山地林内、林縁に生える常緑性の多年草。植物体はほぼ卵形で長さ10cm、幅5cm前後の葉身をもつ葉を数枚根生して生える。葉は長い葉柄があって、葉身の表面は、さまざまな雲紋があって特徴的である。花は春に咲き、径2cm弱の倒円錐状の萼筒からなる花で、萼筒の頭部には6個の瘤状膨出部があるのが特徴である。萼筒は白色で、頭部で著しくくびれて、先に萼裂片となり、裂片は3片で長さ1cmばかり、紫褐色である。本州(中国地方西部)・九州(北部)・四国(南西部)に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物I」,391pp. 株式会社平凡社,東京  
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館会報3:1-49 三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

石見西部の限られた区域にのみ生育する。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地での環境変化、園芸上での採取。

(執筆者:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

クスノキ科

## シロモジ

*Lindera triloba* (Siebold et Zucc.) Blume

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、生育地での個体数もきわめて少数である。

## 概要

夏緑の低木。葉は広倒卵形で長さ、幅共に10cm前後であり、3行脈が顕著で、3中裂して裂片の先は多くはすどとがることが特徴的である。花は早春、葉が出る前に咲く。花は前年枝の葉腋に芽に散形状に黄色の小花を数個ずつつける。果実は秋に熟し、球形で直径約1cm、大きな種子が1個ある。本州の中部以西、四国、九州に分布域がある。

## 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は県西部(吉賀町)の西中国山地の一部で、もともと太平洋側分布のもので山陰側に僅かに越して分布しているようにも思える。中国山地脊梁部の尾根筋に生えるものもあれば一部では溪流沿いに生える個体群もある。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

クスノキ科

## バリバリノキ

*Litsea acuminata* (Bl.) Kurata

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。生育地の中には分布北限地がある。

## 概要

山地に生える常緑の木本。葉は互生し、長楕円形で長さ15cm、幅3cm前後。花は夏に咲き、枝先の葉腋に黄白色の花をつける。雄花、雌花があり、果実は翌年の夏前に黒く熟す。本州(千葉県以西)から琉球に分布する。

## 参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物1」. 391pp. 株式会社平凡社, 東京  
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部~西部とともに隠岐(島後)で見られる。丘陵域の渓谷斜面に生育することが多い。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

サトイモ科

# ウラシマソウ

*Arisaema thunbergii* Blume subsp. *urashima* (H.Hara) H.Ohashi et J.Murata

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県下でまれに生育は見られるが、個体数はとても少ない。

### 概要

平地から低山地の草地や林縁、林中に生育する多年草で葉は通常1枚鳥足状に広がり、11—17枚の狭倒卵形で鋭先端。全縁で深緑色。花序は葉より下に位置し、仏炎苞の内面は特に暗紫色になる。付属体は下部で膨らみしだいに細くなって先は長く糸状に伸び、長さ60cmになる。北海道(日高・渡島)・本州・四国・九州(佐賀県)に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」,391pp.株式会社平凡社,東京  
 邑田 仁(2011)「原色植物分類図鑑 日本のテンナンショウ」265pp.株式会社北隆館,東京  
 松村喜則(2005)島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館  
 松村喜則(2006)島根県の種子植物相(補遺)、島根県立三瓶自然館研究報告4:41-43 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部での生育が知られている。丘陵地の林下や林縁にまれに生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

トチカガミ科

# スブタ

*Blyxa echinosperma* (C.B.Clarke) Hook. f

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



### 選定理由

県内の生育環境は主に溜池に限られており、生育に適した溜池が少ない。

### 概要

北海道を除く全国各地の水田、水路、溜池などの浅水中に生育する一年生の沈水植物。きわめて短い地下茎から下方にひげ根を多数出すとともに薄い鮮緑色の葉を水中に根生する。葉縁には細鋸歯がある。葉の長さは10cmから水深の深い場所では1mを越すなど、変化に富む。かつては普通の水田雑草であったが、除草剤の使用などで減少した全国的に稀な種となっている。

#### 参考文献

角野康郎(2014)日本の水草,326pp.文一総合出版,東京.  
 汐田達哉(2022)鳥取県米子市におけるセトヤナギスブタとマルミスブタの新産地.水草研究会誌,113:47-50.  
 杉村喜則(2006)島根県の植物相、島根県立三瓶自然館研究報告,3:1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県東部の溜池を中心に生育が確認されている。県西部の溜池での記録もある。生育地は主に水の澄んだ溜池であるが、稀に水田や休耕田で生育することがある。近隣の鳥取県西部には水田においてスブタの仲間が記録されている。

### 存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化による溜池の管理不足と水田の乾田化。

(執筆:辻井 要介・國井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

トチカガミ科

# イトトリゲモ

*Najas japonica* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県東部を中心に新産地が見つかったが、年によっては生育しないこともあり、生育状況は不安定である。

### 概要

全国各地の溜池や水田、水路に生育する一年生の沈水植物。全体的に細く繊細な印象で、全長10-30cmほど。葉は長さ1-2cm、幅約0.2mmの糸状で、トリゲモ類の中でもっとも細い。葉縁に細かい鋸歯がある。各節の葉腋に雄花1つと雌花2つが並んでつき、果実は2個ずつ並んでできるため、他のトリゲモ類と識別できる。種子は長楕円形で長さ約2mm、表面に縦に長い長方形の網目模様がある。かつては普通の水田雑草であったが、除草剤の使用などで減少し、全国的にまれな種となっている。

#### 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.  
杉村喜則 (2006) 島根県の植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告, 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県東部の溜池や水田、用水路に稀に生育する。主に山間部の水田で確認されているが、時として平野部の水田地帯にも埋土種子から出現することがある。

### 存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化による溜池の管理不足と水路のコンクリート化。

(執筆者: 辻井 要介・國井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

トチカガミ科

# トリゲモ

*Najas minor* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

県東部の河川や溜池に生育地が限られており、生育状況も不安定である。

### 概要

本州、四国、九州の湖沼、溜池、水田、水路などに生育する一年生の沈水植物。オオトリゲモよりも全体が小形で、葉の長さは1-2cm。類似種のオオトリゲモとの確かな識別は、雄花の葯室の数が1室(トリゲモ)か、4室(オオトリゲモ)かによる。また、この2種は近年の分類学的研究で葉の表皮細胞の長さによる差異(トリゲモが短い)での識別方法も見出された。県内では長らくオオトリゲモとの識別の難しさから情報は不足していたが、新産地の発見や過去にオオトリゲモとされていた産地に本種が含まれることもわかってきた。

#### 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.  
緑川昭太郎・首藤光太郎・志賀 隆 (2020) トリゲモ *Najas minor* とオオトリゲモ *N. oguraensis* のさく葉標本の簡便な識別法. 植物地理・分類研究, 68 (2): 158-159.  
辻井要介・國井秀伸 (2016) 神西湖とその流入河川並びに用水路に生育する水生植物の現況. ホンザキグリーン財団研究報告, 19: 183-188.

### 県内での生育地域・生育環境

県東部の溜池や河川などでの生育が確認されている。比較的水質の良い溜池や神社境内の池、河川下流域に群生する。神西湖の流入河川では数年にわたり大規模な群落を形成したこともあったが、近年は環境変化のため激減した。

### 存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、河川改修、農業形態の変化による溜池の管理不足。

(執筆者: 辻井 要介・國井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

トチカガミ科

# オオトリゲモ

*Najas oguraensis* Miki

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):辻井要介



### 選定理由

県東部の溜池や河川に生育が限られている。

### 概要

本州、四国、九州の湖沼、溜池、水田、水路などに生育する一年生の沈水植物。細い水中茎が2叉状に分枝を繰り返す、葉茎ともに硬いため水中では立体的な構造となるが、茎はもろく容易に折れる。葉身は線形で長さ2-4cm、幅0.5-1.5mmで多数の鋸歯がある。雌雄同株で雄花は苞に包まれ約は4室。

### 参考文献

角野康郎 (2014) 「日本の水草」, 326pp. 文一総合出版, 東京.

辻井要介・國井秀伸 (2016) 神西湖とその流入河川並びに用水路に生育する水生植物の現況. ホシザキグリーン財団研究報告, 19: 183-188.

### 県内での生育地域・生育環境

県東部の溜池や河川での生育が確認されている。比較的水質の良い溜池や河川下流域に群生する。出雲市では流れの緩やかな河川下流域において大規模な群落を形成したこともあった。

### 存続を脅かす原因

除草剤の使用、水質汚濁、アメリカザリガニによる食害、農業形態の変化による溜池の管理不足。

(執筆: 辻井 要介・國井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

ヒルムシロ科

# ササバモ

*Potamogeton wrightii* Morong

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):辻井要介



### 選定理由

これまで普通に見られた宍道湖あるいは宍道湖に流入する小河川での分布域が急激に減少している。

### 概要

北海道から南西諸島まで広く分布。湖沼や河川、水路に生育する多年生の沈水あるいは浮葉植物で、茎は円形、葉は互生し、葉柄の長さ1-15cm、沈水葉の葉身は長さ5-30cm、幅1-2.5cmの長楕円状線形あるいは狭被針形で、沈水葉の先端が芒状に細く尖るのが特徴。湖沼などの止水域や流れの緩やかな河川などでは浮葉を展開し、水面上に長さ2-5cmの花穂を出す。干上がった場所では陸生形となり、冬季には地下茎の先端に殖芽を形成して越冬する。

### 参考文献

角野康郎 (1984) ヒルムシロ属同定の実験 (2) 広葉性の沈水植物. 水草研究会報, 16: 6-11.

角野康郎 (2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京.

### 県内での生育地域・生育環境

宍道湖及び宍道湖に流入する小河川。

### 存続を脅かす原因

宍道湖では塩分が上昇傾向にあること、そして小河川では人為的な刈り取りが原因と思われる。

(執筆: 國井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

ラン科

# ジンバイソウ

*Platanthera florentii* Franch. et Sav.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県下では生育地が少なく、個体数も多くない。

### 概要

冷温帯から暖温帯の林床に生える。茎は高さ20—40cmになる。葉は2枚根生し、長楕円形。長さ5—12cm。幅3—6cm。表面は光沢があり、縁は波状に縮れる。花は8—9月で淡緑色の花を5—10個まばらにつける。背萼片は5—6mmで広卵形、側萼片は披針形で少し長く湾曲する。側花弁は側萼片と同長で、三角状斜卵形。唇弁は広卵形で鈍頭で7—10mmになる。北海道から九州に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京

杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部からの生育が報告されている。山域の林下や林縁に生育している。生育している場合には群生することもある。また、中部の山域からの生育も聞いている。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ラン科

# フウラン

*Vanda falcata* (Thunb.) Beer

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内では全域に分布する植物であるが、園芸上での採取等によって生育地及び個体数は激減している。

### 概要

照葉樹の樹幹や、時に岩上に着生する常緑の草本で、植物体は長い着生根をもち、短い茎に左右2列に葉を互生し、株となって草丈20cm前後になる。葉は広線形で内側に折れ、硬く、長さ約10cmで、基部は鞘となっていて、鞘の上部に関節がある。初夏の頃に、葉のもとから長さ10cm前後の花茎を出し、5花程を総状に咲かせる。国内では関東以西から四国、九州、南西諸島にかけての暖地に分布する。花には芳香があり、古来より栽培する人があって野生品が好まれて採取される。

#### 参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)

杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内には広く生育地が点在し、神社、仏閣の照葉樹古木等に着生がみられ、主幹から支幹さらに小枝にも着いている。

### 存続を脅かす原因

着生樹木、樹林の伐倒、倒開と園芸上での採取。

(執筆者:井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

アヤメ科

# ヒオウギ

*Iris domestica* (L.) Goldblatt et Mabb.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である草原は、管理放棄により遷移が進行し、各地で減少している。

### 概要

山地や海岸沿いの草原に生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと高さ60-100cmになる。葉は長さ30-50cm、幅2-4cmと、幅の広い剣状である。花期は8-9月で、複数に分枝した花茎の先に2-3の花をつける。花は橙色で、直径は3-4cm、花被片の内面に暗赤色の斑点がある。種子は直径約5mmの黒色の球形で、強い光沢がある。本州から琉球、朝鮮半島、中国、東南アジア、インドに分布する。

#### 参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科, 666pp. 平凡社, 東京.  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(西ノ島町)、県東部(松江市、出雲市)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、いずれも海岸沿いの明るく開けた草原や露岩地である。県中部の生育地は山麓の草原であったが、現在は確認できない。

### 存続を脅かす原因

草原の管理放棄や遷移の進行による灌木化、樹林化、園芸上の採取。  
 (執筆者: 井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

ワスレグサ科

# ノカンゾウ

*Hemerocallis fulva* L. var. *disticha* (Donn ex Ker Gawl.) M.Hotta

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

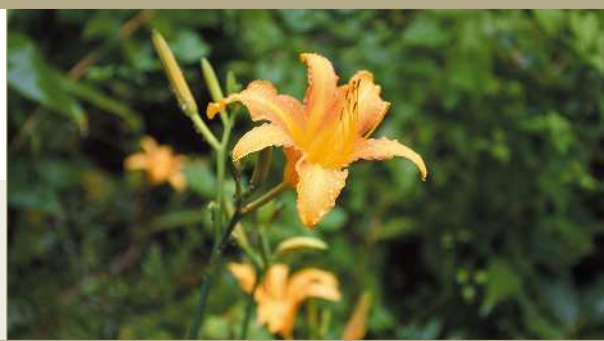
島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山間の路傍や草地に生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと高さ50-70cmになる。葉は細長く、長さ50-70cm、幅10-15mmである。花期は7-8月で、花茎の頂部に複数の花をつける。花被片は橙赤色で、花は一重咲きである。近縁のヤブカンゾウは、花が八重咲きで、花茎が50-100cmと全体的に大ぶりである。原野に多いことからノカンゾウといわれる。本州から琉球、中国、台湾に分布する。

#### 参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編 (2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科, 666pp. 平凡社, 東京.  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市)、県西部(浜田市)で確認されているほか、県中部(美郷町、川本町、邑南町)での確認情報もある。生育環境は、道路沿いで、定期的に草刈りが行われている明るく開けた草むらである。

### 存続を脅かす原因

草刈りの放棄による遷移の進行、園芸上の採取。  
 (執筆者: 井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

ヒガンバナ科

## オオキツネノカミソリ

*Lycoris sanguinea* Maxim. var. *kiushiana* Makino ex T. Koyama

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):津島辰雄



## 選定理由

生息地が少なく、個体数も多くはない。

## 概要

キツネノカミソリの変種とされ、山野の湿った林下などに生える多年草で、葉は春に出て、帯状で長さ40—50cm、幅10—15mm。先端は鈍頭で、キツネノカミソリよりひとまわり大きい。花も大きく、7月に咲き、花被は長さ7—9cmとなる。特にキツネノカミソリに対し、花被片が反り返ること、花糸が突き出て花被片より長いことで区別できる。本州(関東以西)~九州に分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物1」,391pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館  
 松村喜則(2006) 島根県植物分布資料(29)オオキツネノカミソリ *Lycoris sanguinea* Maxim. var. *kiushiana* Makino 島根植物研究会会報11: 7 島根植物研究会  
 丹後亜興(2020) 隠岐諸島新産の植物(13)オオキツネノカミソリ、沖の文化財37: 59-60 隠岐の島町教育委員会他

## 県内での生育地域・生育環境

西部に生育が見られる。山域の谷の斜面などに群生して生育している。隠岐(知夫里島)に生息するとの情報もある。鳥取県西部にも分布するので、詳細な調査が望まれる。

## 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キジカクシ科

## マイヅルソウ

*Maianthemum dilatatum* (A. W. Wood) A. Nelson et J. F. Macbr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



## 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

## 概要

山地や亜高山帯の林床に生える多年草である。長く這う根茎をもつ。草丈は茎をのばすと10—25cmになる。葉は茎に2個が互生する。葉は長さ3—7cmの卵心形で、先はとがり、基部は深い心形になる。花期は5—7月で、茎の上方に小さな白い花を20個前後つける。果実は直径5—7mmの液果で、赤色に熟す。北海道から九州、朝鮮半島、中国北東部、シベリア東部、サハリン、千島、カムチャッカ、北アメリカに分布する。

## 参考文献

大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩編(2015) 改訂新版 日本の野生植物 1 ソテツ科~カヤツリグサ科, 666pp. 平凡社, 東京.  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)で確認されている。生育環境は、標高の高い山地の夏緑広葉樹林の林床である。

## 存続を脅かす原因

園芸上の採取、森林伐採。

(執筆者:井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

ガマ科

# ミクリ

*Sparganium erectum* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はまれであり、将来において存続が心配される。

### 概要

川や池の浅い水中に生える抽水植物で、植物体は地中に分枝する地下茎の先端に株をつくり群生する。葉は2列で数枚が高さ1m、幅1cm前後で、裏側に稜がある。夏前に葉とほぼ同長の花茎に少しばかりの枝を分け、その枝に球状の花序をつけて花が咲く。枝の下部には雌性花序、上部に雄性花序がつく。雌性花序は熟して径2cm程の球形の集合果となる。国内では北海道~九州に分布し、アジア・ヨーロッパ・北アフリカの温帯に広く分布するとされる。

### 参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物 I」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館  
 角野康郎 (1996) 「日本水草図鑑」 179pp. 株式会社文一総合出版、東京

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)を含めて全域からの生育が報告されている。低地の溜池や河川の流域に生育が見られたが、遷移や河川改修などで見られなくなっている。

### 存続を脅かす原因

遷移、河川改修。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ガマ科

# ヤマトミクリ

*Sparganium fallax* Graebn.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 自然環境課



### 選定理由

県内での生育地はややまれであり、多くは生育地の環境変化による激減が心配される。

### 概要

川や池の浅い水中に生える抽水植物の一種であり、地中に分枝する地下茎の枝の先端に株を作り群生する。葉は2列に数枚がついて草丈50cmばかりとなり、葉の幅は1cmばかりで裏側に稜がある。夏頃に花が開くが、葉とほぼ同長の茎が伸び、葉腋に球状の花序として多くの小花がつく。下方に雌性花序、上方に雄性花序が数個ずつつく。雌性花序のうち下部のものは腋上性で、花序の柄は茎と合着する特性があって、茎の葉と葉の間あたりに花序がつくように見える。本州の関東地方以西、四国、九州から南はインドにまで分布域があるとされる。

### 参考文献

大橋広好他 (2015) 「改訂新版 日本の野生植物 I」, 391pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館  
 角野康郎 (1996) 「日本水草図鑑」 179pp. 株式会社文一総合出版、東京

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部から中部の低地から丘陵域にかけて生育が報告されている。多くはため池周辺に見られ、まれに河川周辺のよどみなどの流れの非常にゆるやかな場所でも確認できる。各地でため池の管理放棄のために個体数が激減している。

### 存続を脅かす原因

遷移、溜池の管理放棄、河川改修。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ガマ科

# ナガエミクリ

*Sparganium japonicum* Rothert

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):野津貴章



### 選定理由

県内での生育地はまれであって、個体群も多くはない。

### 概要

川や池の浅い水中に生える抽水植物の一種であり、植物体は地中に分枝する地下茎の枝の先端に株をつくり群生する。葉は線形で2列に数枚が高さ50cmばかりに伸び、幅は1cmばかりで裏側に稜がある。夏頃に葉とほぼ同長の高さに茎が伸び、葉腋に球状の頭状花序を1個ずつつけて花が咲く。下方の数個の花序は有柄で、雌性花序である。上方に無柄の雄状花序がつく。本州から四国、九州に分布し、朝鮮半島にも分布するものとされる。

### 参考文献

大橋広好他 (2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館  
 角野康郎 (1996)「日本水草図鑑」179pp. 株式会社文一総合出版、東京

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部までの低地から丘陵域に見られる。多くは用水路などの流れのある場所に見られるが、まれにため池などにも見られることがある。また、島後に生育していたとの情報もある。

### 存続を脅かす原因

遷移、流路確保のための抜取り。

(執筆:柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

カヤツリグサ科

# サツマスゲ

*Carex ligulata* Nees

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

東部の県内のやや海岸寄りの山地林内に生育地が点在するが、昭和60年代頃より生育地が消滅したり、個体数が減少している。

### 概要

山地林内に生える多年草で株となって、草丈50cmばかりとなる。茎の上部には長さ20cm、幅5mmばかりの葉身のある白緑色の特徴ある葉を多くつける。また下部には葉身のない葉がつく。花は夏前に咲き、雌小穂は長さ3cm前後で柱状、長い苞があり、果胞は倒卵形、長さ4-5mmで全体に銀白色の毛が密生する。国内では本州(関東南部以西)、四国、九州に生え、朝鮮半島、中国、インドにもあるとされる。

### 参考文献

大橋広好他 (2015)「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部の沿岸域に稀な生育が見られる。沿岸域の林床や林縁に生えている。

### 存続を脅かす原因

生育地の遷移による樹林化。

(執筆:柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

カヤツリグサ科

# キノクニスゲ

*Carex matsumurae* Franch.

カテゴリー区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	—
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

No Image

### ■ 選定理由

県内での生育地はまれであり、生育地での個体数も多くはない。

### ■ 概要

海岸沿いの林内に生える常緑の多年草で、葉はやや硬く、線形で長さ20-30cm、幅1cmばかりで多数が根生して株状となる。花は春早く咲く。稈は高さ30cmばかりで、小穂は4-5個で、頂小穂は雄性である。雌小穂は長さ3cmばかりの柱状で、熟して、帯白色である。柱頭は2岐、果実の頂部の附属体の基部は環状に肥厚する。本州（静岡県・富山県以西）・四国・九州に分布し、朝鮮半島にも分布する。

#### ● 参考文献

大橋広好他（2015）「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3)：1-49 島根県立三瓶自然館

### ■ 県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島に生育地が知られている。前回の報告で、「石見部海岸にも分布するとされるが、明らかではない。」とされているがその資料が確認できない。照葉樹二次林内に生えているが個体数はあまり多くはない。

### ■ 存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化。  
 （執筆者：柳浦 正夫・杵村 喜則）

## 準絶滅危惧 (NT)

カヤツリグサ科

# オオクグ

*Carex rugulosa* Kükenth.

カテゴリー区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	—
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	環境省カテゴリー 準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者)：—



### ■ 選定理由

県内では生育地が限られている。

### ■ 概要

汽水域の湿地に生える植物であり、植物体は地中の分枝する根茎から長さ50cm、時に1m、幅は1cm弱のやや緑白色の葉を数枚つけた株として生え、群生する。花は春早く咲き、新葉が出ると同時に花茎を出し、下部に雌性花序2-3個、上部に雄性花序を1個つける。花序は伸びて30-50cmばかりになる。果実は夏前には熟し、果胞は6-7mmで、この類では大きい方であり、よく目立つ。国内では北海道・本州・九州に分布し、朝鮮半島・中国東北部・ウスリーの海岸域に分布する。

#### ● 参考文献

大橋広好他（2015）「改訂新版 日本の野生植物1」.391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則（2005）島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3：1-49 島根県立三瓶自然館  
 國井秀伸・今田直人（2008）島根県大橋川に生育する湿生植物オオクグ (*Carex rugulosa* Kükenth.) の保全生態学的研究, 4：7-14.

### ■ 県内での生育地域・生育環境

東部の中海から宍道湖にかけての水辺に生育地がある。中海では群落規模は小さいがほぼ全域に生育地が点在する。大橋川河口附近には優良な規模の大きな群落がある。

### ■ 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化、河川改修工事などの人為干渉。  
 （執筆者：柳浦 正夫・杵村 喜則）

## 準絶滅危惧 (NT)

カヤツリグサ科

# ヒトモトススキ(シシキリガヤ)

*Cladium chinense* Nees



### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):—

### 島根県固有評価

分布限界種(北限)

### 環境省カテゴリー

—

### 選定理由

県内での生育地は海岸に点在するが、いずれも小面積で、個体群も小さいものである。

### 概要

塩性湿地から沿海地の湿地に生え、草丈は100—200cmになる大形の多年草。葉は濃い緑で硬く、葉縁も硬く鋸歯状で強くざらつく。花は夏に咲き、葉よりも高く花茎を伸ばして、上部の節ごとに多くの枝を分けて房状に多数の小花をつける。小穂の鱗片は狭卵形で長さ3mm、花柱は3岐、果実は広卵形で長さ2mm。アジアの熱帯から中国、南西諸島、本州では関東以西、能登半島以西に分布するものとされる。

### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

県内での生育地は石見部から出雲部の海岸に点在して、隠岐諸島の島後に分布の北限がある。海岸の岩棚の水湿地に生える。出雲部では中海にも分布し、水辺から浅い水中に生えて、時にオオクグと隣接して見られるところもある。また、島前の3島に生育するとの情報もある。

### 存続を脅かす原因

波浪などによる自然災害、土地改変による生育地の破壊、消滅。  
 (執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

イネ科

# タキキビ

*Phaenosperma globosum* Munro

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

分布限界種(北限)

### 環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山際などの草地に生えるやや大型の多年草で株として生える。根生葉は長い柄があって、葉身は50cmばかりで広線形。花は夏から秋にかけて咲く。稈は高さ1mばかりで、稈の上部に枝を分けて、円錐状の花序に、1列に小穂をつける。小穂は長さ4mm程で、1花からなる。穎果は球状、長さ3mmばかり。国内では本州(中部以西)・四国・九州に分布し、朝鮮半島南部・台湾・中国中南部・インド北東部に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2015)「改訂新版 日本の野生植物Ⅰ」,391pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

中部で生育が確認されている。林縁の草地や崖などに生えている。

### 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化、路整備事業による生育地の破壊。  
 (執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

イネ科

# ウキシバ

*Pseudoraphis sordida* (Thwaites) S.M.Phillips et S.L.Chen

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):辻井要介



### 選定理由

生育場所が限られており、開発が危ぶまれる。

### 概要

本州、四国、九州の湖沼、溜池、水湿地に生育する浮葉あるいは半抽水の多年生植物。茎は長い棒状で軟質。順次枝を出し、上部は斜上あるいは水面に浮かぶ。節から水中に根を出す。水位が低下した場合には泥中に根を伸ばす。葉身は淡緑色で狭線形あるいは広線形、長さ3—6cm、幅2.5—5mmで、縁はざらついて先はとがる。葉は互生し、長さ約3cmの筒状の葉鞘が茎を抱く。花序は穂の先に単生するが基部は葉鞘の中にとどまる。総状花序の長さは3—5cmで筆状に見える。

### 参考文献

角野康郎(2014)日本の水草。326pp.文一総合出版、東京。

### 県内での生育地域・生育環境

県東部の溜池。

### 存続を脅かす原因

家庭雑排水の流入による生育地の有機汚濁及び溜池の護岸整備。

(執筆者: 國井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

ケシ科

# ジロボウエンゴサク

*Corydalis decumbens* (Thunb.) Pers.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地の明るい林床や林縁、川岸や草原などに生える小型の多年草である。草丈は花茎を伸ばすと10—20cmになる。地中の塊茎から複数の根出葉を出す。根出葉は長い柄があり、2—3回3出複葉で、小葉はふつう2—3深裂する。花期は4—5月で、ひとつの塊茎から複数の花茎を出す。花茎の最下の葉は鱗片に退化しない。花は長さ12—22mmで、紅紫色～青紫色である。島根県内で広くみられるヤマエンゴサクは、花が青紫色で、塊茎から出る花茎は1本のみ、最下の1葉は鱗片状に退化する。本州(関東以西)、四国、九州、中国、台湾に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編(2016)改訂新版 日本の野生植物 2イネ科～イラクサ科。640pp.平凡社、東京。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市)、県中部(江津市)、県西部(益田市)で確認されている。生育環境は、夏緑広葉樹二次林などのやや明るい林床で、春先に光の当たりやすい場所である。

### 存続を脅かす原因

夏緑広葉樹林の手入れ不足による林床の常緑樹林化、森林伐採。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

キンポウゲ科

## ユキワリイチゲ

*Anemone keiskeana* Maxim

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

## 島根県固有評価

—

## 環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内での生育地は限られている。

## 概要

林床に生える多年草で、地中に這う根茎に数枚の根生葉をつけて、草丈は10—40cm、根出葉は三角形で3小葉に裂けている。葉は秋の終りに出て、初夏には枯れる。花は早春に咲き、高さ20cm前後の花茎を立て、上部に3枚の茎葉をつけ、その先に径3cmばかりで淡紫色の花を1個つける。花は長楕円形の萼片10枚程が花弁状となる。本州(近畿地方以西)・四国・九州にかけて分布する。

## ●参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部～西部にかけて生育地が点在する。丘陵域の岩や小石の多い被陰された斜面下などに群生する。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開による生育地の環境変化、園芸上での採取。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

マンサク科

## コウヤミズキ

*Corylopsis gotoana* Makino

## カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

## 島根県固有評価

分布限界種(西限)

## 環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内での生育地は限られていて、いずれも狭い範囲である。

## 概要

夏緑性の低木で高さは2—3mで株立ちする。葉は互生し、卵円形で長さ10cm、幅8—9cm。花は早春、葉が出る前に長さ4—5cmの花序を下垂して10個ばかりの黄花をつける。花序軸は無毛である。本州(中部地方以西)・四国・九州・朝鮮半島に分布する。

## ●参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部～西部の山域に点在して見られる。いずれも夏緑広葉樹二次林からなる山地の谷間から谷頭にかけて見られ、生育地によっては県道、町道が通り、道路拡幅等による個体群への影響、個体数減少が心配される。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開、各種工事等による生育地の直接破壊。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

マンサク科

# イスノキ

*Distylium racemosum* Sieb. et Zucc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

樹高20m前後の大木になる常緑の本木。葉は互生し、葉身が長さ6-7cm、幅3cmばかりで厚く硬い。花期は春で葉腋から出る長さ5cmばかりの総状花序に両性花と雄花をつける。果実は広卵形で長さ約1cm。葉にはしばしば大きな虫癭が、時に多くつき、果実と間違ふことがある。国内では本州(関東地方以西)~琉球・韓国(済州島)・台湾・中国(東部海岸・海南島)に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から中部での生育が報告されている。神社、仏閣の古い森の中や、海岸近くのスダジイ林及びウラジロガシ林内に混生する。島根半島東部に生育するものは自生分布の北限と考えられ、貴重である。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ベンケイソウ科

# ミツバベンケイソウ

*Hylotelephium verticillatum* (L.) H. Ohba

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数もきわめて僅かである。

### 概要

岩の露出した林内や林縁に生える夏緑性の多年草。茎は高さ20-50cm。葉は楕円形で長さ5cm、幅3cm前後で多肉質、多くは3-4輪生する。花は夏に咲き、茎頂部の複散房花序に黄白色の小花を多数つける。北海道~九州・朝鮮半島・中国・シベリア東部・サハリン・千島列島・カムチャツカ半島に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部~中部と隠岐に産地は点在する。やや被陰された川沿いや林縁の露岩地などに見られる。

### 存続を脅かす原因

岩場での遷移による環境変化。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ベンケイソウ科

# ツメレンゲ

*Orostachys japonicus* (Maxim.) Berger

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):—



### ■ 選定理由

県内での生育地は点在するが、多くはない。生育地での個体数は多いところもあるが、ほとんどの生育地では限られている。

### ■ 概要

乾燥する岩上に生える多肉質の植物で、葉は長さ4-5cm、幅5mmばかりの細長い形で多数が根生状に束生する。花は秋に咲き、開花株は高さ20cmばかりの花茎を立てて、穂状に白色の花を多数、密生して咲かせ、果実形成後枯れる。本州(関東地方以西)~九州・朝鮮半島・中国(東北部)に分布する。

#### ● 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

### ■ 県内での生育地域・生育環境

東部と中部の各地に点在し、露岩崖地、岩峰に生える。出雲市南部の神戸川流域には多産する。また、西ノ島町に生育するとの情報もある。

### ■ 存続を脅かす原因

園芸上での採取、各種工事による生育地の破壊 遷移。  
 (執筆者:柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ベンケイソウ科

# オオメノマンネングサ

*Sedum rupifragum* Koidz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

島根県固有種

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):—



### ■ 選定理由

島根県固有の植物であり、生育地は狭い範囲に限られている。

### ■ 概要

多くは岩上に生える草丈20cmばかりの夏緑性多年草。植物体全体が多肉質で、茎は下部で分枝する。葉は長さ2-3cm、幅3-4mmの針状披針形の葉を多数互生して、株状をなす。花は5月に咲いて、茎頂の集散状の花序に径5mmばかりの黄色の小花を多数つける。

#### ● 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49 島根県立三瓶自然館

### ■ 県内での生育地域・生育環境

島根県の固有種で出雲部の一部の狭い範囲に限られて存在する。岩場に生育するが、やや有機質の堆積した場所に根をはって生育する。また生育地ではコンクリートでもコケの生える立地では一緒に生育している場合もある。

### ■ 存続を脅かす原因

園芸上での採取が考えられる。また、各種工事による生育地の一部の破壊、個体群の消失、一部では遷移による樹林化が心配される。  
 (執筆者:柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

アサ科

# コバノチョウセンエノキ

*Celtis biondii* Pamp. var. *biondii*

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。

### 概要

落葉小高木で、葉の葉柄は長さ2—7mm、葉身は倒卵形または広倒卵形で長さ3—7cm、幅2—3.5cm、左右やや不対称。先端は尾状に伸び、鋭形の基部から3脈が伸び、中部以上に鋸歯がある。花は5月に咲き、雄花が若枝の基部に数個腋生し、花被片は4個で、楕円形または倒卵長楕円形、長さ3mm。雌花は腋生し、雄蕊は退化して花糸だけになる。国内では本州(近畿以西)・四国・九州に生育し、朝鮮半島・中国・九州にも見られる。

### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部にかけて広く生育が見られる。丘陵域から山域にかけての川沿いの斜面などにまれに生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

アサ科

# オヒョウ

*Ulmus laciniata* (Trautv.) Mayr var. *laciniata*

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。

### 概要

山野に生える落葉高木で、25mになるものもある。二年枝は紫褐色で、皮目が丸く散生し、無毛。葉は2列互生し、倒広卵形で上部は3—5裂するのを特徴とするが、裂けないこともある。長さ7—15cm、幅5—7cmで、表面は著しくざらつく。花は4—6月、葉に先立って前年枝の葉腋に多数腋生して咲く。花被は鐘形、薄い紅色をしており、長さ5mm、5—6裂する。花糸は花被より出て無毛。翼果は5—7月に熟し、円形または広楕円形で長さ1.5—2cmになる。国内では南千島・北海道・本州・四国・九州に分布し、朝鮮半島・中国(東北部)・東シベリア・カムチャツカ半島に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部と中部に生育が見られる。山域の落葉広葉樹林内にまれに生育しているのが確認される。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

イラクサ科

## ツルマオ

*Gonostegia hirta* (Blume) Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



## ■ 選定理由

人為的影響や遷移によって安定して生育できる環境ではなく、個体数の減少が心配される。他の自生地とは離れた分布を示すもので、自生の北限と考えられる個体群である。

## ■ 概要

暖地に生える多年草で、茎はまばらに分枝し、長く地をはってつる状になり、先は高さ30cmくらいになる。葉は対生し披針形で長さ3—8cm。先は長くとがり、3脈があり、側脈は先まで達する。柄は長さ1—3mm。花は9—10月で雌雄同株。球形の花序が葉腋につく。雄花被片は5個で5雄蕊がある。瘦果は黒色でつやがあり、長さ1mmとなる。国内では本州(静岡県・紀伊半島南部・中国地方)・屋久島・種子島から南西諸島に生育し、中国(中南部)・台湾・東南アジア・インドに分布する。

## ● 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京  
 レッドデータブックひろしま改訂検討委員会(2012) 広島県の絶滅のおそれのある野生生物(第3版) 633pp. 広島県  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

中部で生育が見られる。谷部の湿地に群生しており、他の地域と離れた分布域を示すもので、江の川の下流域に点々と見られるものである。この生育は江の川の上流部の広島県では非常にまれのようである。また、太田川流域にも若干生育するようである。

## ■ 存続を脅かす原因

刈り取り、遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

イラクサ科

## キミズ

*Pellionia scabra* Benth.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



## ■ 選定理由

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数は少ない。

## ■ 概要

山中谷間に生え、茎のものの方は木質となる半低木で高さ20—40になる。茎には白色の短毛が密に生え、葉は楕円形で長さ約5cm、先は尾状にとがり、互生する。花は春に咲き、雌雄同株とされる植物であり、雄花序は集散状、雌花序は球状に小花をつけるが目立たない。本州(関東以西)~琉球・中国・台湾に分布する。

## ● 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」,381pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

東部から西部の海岸寄りの照葉樹林域内で谷間等の陰湿な地に生育地が点在する。東部にかけて産地が少なくなり島根半島東部の生育地は北限と考えられる。

## ■ 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

イラクサ科

# コケミズ

*Pilea peploides* (Gaudich.) Hook. et Arn.

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、人為的影響を受けやすい場所に生育する。

### 概要

陰地に生える1年草で、草丈は5-10cm程の小型の柔らかい植物である。葉は卵円形で長さ5-10mmで対生する。花は春から秋に咲き、雌花と雄花が混生して頭状花序をなして葉腋につく。雌花被片は2枚、雄花被片は4枚ある。本州(関西以西)から琉球・朝鮮半島・中国・マレーシア・インド・ハワイ・ガラパゴス諸島に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅱ」.381pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部に知られ、低地の林縁や谷部に見られる。また、陰地の崖や、集落の用水路の縁や、石塔などに生えるものもある。隠岐(島後)に分布するとの情報もある。

### 存続を脅かす原因

民家周辺での清掃活動などによる生育地の破壊、生育地の乾燥。  
 (執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

バラ科

# コゴメウツギ

*Neillia incisa* (Thunb.) S.H.Oh

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はきわめて限られていて、個体数もきわめて少ないものである。

### 概要

夏緑低木で、葉は互生し、三角状広卵形、長さ5cm、幅3cm前後、大小欠刻状で、重鋸歯縁が特徴的で目立つ。花は直径4-5mmの小花、白色で散房花序に多くつける。

国内では、北海道、本州、四国、九州に分布し、国外では朝鮮半島、中国大陸と、広い範囲に分布する植物とされる。

### 参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット、<https://science-net.kahaku.go.jp/>、(2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(出雲市)、県中部(邑南町)、県西部(益田市、吉賀町)など、きわめてまれである。県東部と県中部の生育地は、川岸岩崖から河川数岩上で、僅かな個体が知られている。県西部は西中国山地の岩崖や河川沿いに数株が生育しているだけの状態である。

### 存続を脅かす原因

生育地の自然な遷移による樹林化による消滅が心配される。  
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

バラ科

# ヒメヘビイチゴ

*Potentilla centigrana* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

生息地も個体数も少なく、環境の変化で絶えてしまう危険性がある。

### 概要

やや湿った林縁などに生える多年草で、茎は細く、分枝する。茎は斜上したのち、傾伏し、伸長して節から根を出しながら伸びる。葉は3出複葉で長い柄があり、小歯は薄く、ほぼ無柄または短柄があり、倒卵形から楕円形、長さ0.5—1.5cm、幅0.4—1.5cmで、鈍頭から円頭。縁に葉牙状鋸歯がある。表面は無毛で、裏面はわずかに帯白色で脈状に圧着した毛が生える。葉柄は0.5—2cm、托葉は披針形から卵形で長さ7mmになる。花は4—8月で、単生し、径6—8mm、萼片は狭卵形、鋭頭、副萼片は披針形から長楕円形で萼片と同長となる。花弁は黄色で、広倒卵形から倒卵形で長さ3mmで、先端はわずかにくぼむ。瘦果は広卵形で褐色になる。北海道・本州・四国に分布し、極東ロシア・朝鮮半島・中国に分布する。

### 参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」.338pp. 株式会社平凡社.東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館  
 杵村喜則 (2006) 島根県植物分布資料(28)ヒメヘビイチゴ *Potentilla centigrata* Maxim. 島根植物研究会会報10:6 島根植物研究会

### 県内での生育地域・生育環境

中部と西部から報告されている。詳細は不明だが、山域の林下や林縁に生育していたものと考えられる。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

バラ科

# オオヤマザクラ (エゾヤマザクラ)

*Prunus sargentii* Rehder

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 青木充之



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数はきわめて少ない。

### 概要

樹高20cmを越す大木となる夏緑性木本。成木の樹皮は暗紫褐色で横に長い皮目をもつ。葉は長さ2cm前後の葉柄があって、葉柄上部に腺があり、葉身は楕円形で基部が切形、またはすこしくぼみ、長さ10cm、幅6—7cm、単鋸歯だが一部2重鋸歯となる。花は春に咲き、多くは葉が出る前に葉腋の部分に散形状に数花を咲かせる。花は大きく径4cmばかりになる。北海道から本州、四国に分布するが、本州では近畿以西ではまれとなる。

### 参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」.338pp. 株式会社平凡社.東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島と東部の中国山地沿いにまれに見られる。多くは夏緑樹二次林内にあって、コナラ、ミズナラ等の夏緑樹と混生している。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

バラ科

## エドヒガン

*Prunus spachiana* (Laval, ex H.Otto) Kitam. f. *ascendens* (Makino) Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



## 選定理由

生育がまれであり、個体数も少ない。

## 概要

落葉高木で高さ20mになる。若い枝は暗灰褐色でやや光沢があり、軟毛が生える。葉柄は長さ2—2.7cmで葉身は長楕円形から狭倒卵形で、長さ3.3—8.8cm、幅1.8—4.5cm、先端は鋭尖形、基部は広くさび形で1対に蜜腺がある。側脈は10—14対で、表面には軟毛を散生し、裏面には脈にそって開出毛をやや密に生じる。花は3—4月、葉より先に開き、花序に2—5つける。花柄は1—1.4cm、花床筒は短い筒形で赤紫色で膨らむ、ともに開出毛を密生する。花弁は楕円形または倒卵形で淡紅色。長さ10—12mm、雄蕊は18—27本で花糸に毛はない。果実は球形で計9mm、6月には熟し、黒色になる。本州・四国・九州に分布し、朝鮮半島南部・済州島に分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京  
 萩村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育が見られる。丘陵域から山域の川沿いの斜面などにまれな生育が見られる。また、隠岐(島後、西ノ島)に生育するとの情報もある。

## 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

バラ科

## カジイチゴ

*Rubus trifidus* Thunb.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



## 選定理由

生息地も個体数も少ない。遷移や人為的影響を受けやすいところに生育するため個体数の減少が心配される。

## 概要

海辺の林縁などに生える低木で、2mほどになる。茎はよく分枝し、円柱形、とげがなく、軟毛と線毛が生える。葉は卵状円形で基部は心形、花は茎の先端に集散花序に数個の花をつける。花は径2.5—3cm、萼片は狭卵形でやや尾状の鋭尖頭、長さ3mm、花弁は白色で卵状円形、縁は波打ち、長さ幅ともに11—13mm。果実は球形で黄色から橙色となる。本州(青森県以南)・四国・九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布するとされる。

## 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京  
 萩村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

隠岐(西ノ島)と東部・中部での生育が確認されている。沿岸部の林縁などにまれな生育が見られる。

## 存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

バラ科

# ナンキンナナカマド

*Sorbus gracilis* (Sieb. et Zucc.) C. Koch

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):津島辰雄



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地によっては個体数が激減して、生育地が消滅する危険性がある。

### 概要

夏緑性の高さ3m程になる低木で、葉は奇数羽状複葉で7~9対の小葉を対生し、上部は大型で、下部のものは小型となるので全体は倒卵形となり、長さ20cm、幅10cm程。葉に大型で宿在性の托葉が1対あることが特徴である。花は春に咲き、枝先きに5~6cmの長さの花序を出し、10花ばかりの小花をつける。果実は楕円形で長さ約1cm。赤く熟れる。

### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部の山地に稀に見られ、露岩状地などの不安定な立地に生育する。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開と遷移による環境変化によって生育個体が消滅することもある。

(執筆者:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

バラ科

# シモツケ

*Spiraea japonica* L.f. var. *japonica*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、個体数が激減しつつある。

### 概要

高さ1m程の夏緑の低木。葉は多くは卵形で、長さ3~4cm、幅1~2cmで互生する。花は初夏の頃に咲き、今年枝の先端に複散房状の花序に淡紅色から濃紅色の小花を多数つけ、時に美しい。国内では本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国にも分布するものとされる。

### 参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/。(2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村)、県東部(奥出雲町)、県中部(大田市)に生育地があるが、まれである。明るい夏緑二次林内や林縁、山地草原、山中路傍の草地などに生える。生育地によってはその場の遷移による環境変化によって個体が消滅しつつある状態も見られる。

### 存続を脅かす原因

山地草原の樹林化などの遷移による環境変化。

(執筆者:井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

カバノキ科

# サクラバハンノキ

*Alnus trabeculosa* Hand.-Mazz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地はかなり限られていて、いずれも狭い範囲のものである。

### 概要

水湿地に生える樹高20m、幹径30cm前後に生長する夏緑の広葉樹である。葉は長楕円形から広楕円形で、長さ7—8cm、幅4—5cmで互生し、表面の脈は裏側にくぼみ、裏面の脈は隆起する。花は早春、葉の出る前に雄花序は枝の先に5個程を下垂して咲き、雌花序はそのもとに3—5個つけて咲く。ハンノキとよく似ているが、成木の樹皮は灰白色で、ほとんど平滑であり、縦に裂けるハンノキとはかなり異なる特徴である。国内では東北地方南部以西の本州と九州の一部に分布し、中国南東部に分布がつながるものとされている。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(浜田市、益田市)の谷間の水湿地にのみ知られている。

### 存続を脅かす原因

水湿地の遷移による乾燥立地化、埋め立てによる土地造成などが考えられる。

(執筆: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

カバノキ科

# サワシバ

*Carpinus cordata* Blume var. *cordata*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。

### 概要

山地に生える落葉高木で、10—15mになる。小枝は黄灰色を帯びる。葉は1—2cmの葉柄があり、葉身は卵状楕円形から卵形で、長さ7—14cm、幅4—7cm、先端は急鋭尖頭で、やや尾状に伸び、基部は心形。短い芒状になる多数の鋸歯がある、側脈は15—23対となる。花は4—5月ころ、雌雄別々の尾状花序をつける。雄花序は前年枝に側生し、雄蕊は4—8本、雌花序は新枝に頂生し、花被は広鐘形で縁は浅く4裂する。果実はやや扁平な卵状楕円形で長さ5mmになる。国内では北海道から九州に見られるが西に行くほど少なくなる。国外では朝鮮半島・中国・ウスリーに産する。

#### 参考文献

大橋広好他 (2016) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」, 338pp. 株式会社平凡社, 東京  
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から生育が報告されている。山域の澤などの斜面にまれに生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ホルトノキ科

# コバンモチ

*Elaeocarpus japonicus* Sieb. et Zucc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):—

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は石見地方西部にのみ知られていて、生育地での個体数も限られたものである。

### 概要

常緑で、樹高10数mになり、樹皮は灰白色で、ほとんど平滑である。新梢は緑色で、葉は長さ10cm、幅3—5cmばかりの楕円形で、互生する。年間を通じて、一部の葉が紅色を帯びて紅葉状態のものがみられるのが特徴的である。雌雄異株で、花は初夏の頃に咲き、前年枝の葉腋につく総状花序に淡黄緑色の目立たない小花をつける。国内では本州(紀伊半島・中国地方西部)・四国・九州・琉球に分布し、台湾・中国にも分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部に点々と見られ、丘陵域の社寺林等の照葉樹林内や林縁に生育する。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

スミレ科

# ヒゴスミレ

*Viola chaerophylloides* (Regel) W.Becker var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地のやや明るい林内や林縁などに生える多年草である。草丈は5—10cmで、地上茎をもたない。地下茎は短く、そこから葉を根生する。葉は長さ4—7cm、複葉で3全裂し、裂片がさらに3回掌状~羽状に全裂または3深裂する。花期は3—5月で、直径は1.5—2cm、白色~淡紅紫色である。本州(秋田県以南)、四国、九州に分布する。

#### 参考文献

松江市史編集委員会(2019) 松江市史 史料編1「自然環境・原始・古代」, 650pp. 松江市, 島根。  
 大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2016) 改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科~センダン科, 604pp. 平凡社, 東京。  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(松江市、雲南市、飯南町)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、夏緑広葉樹林の林内のうち、明るい林床や林縁である。

### 存続を脅かす原因

園芸上の採取、雑木林の手入れ不足による林内の常緑広葉樹林化。

(執筆:井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

スミレ科

# エイザンスミレ

*Viola eizanensis* (Makino) Makino var. *eizanensis*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):青木充之



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地の林内や林縁に生える多年草である。草丈は5-15cmになり、地上茎はもたない。地下茎は短く、そこから葉を根生する。葉は長さ5-9cmの複葉で、3全裂し、さらに中裂する。花のあとには、葉は長さ10-15cmと、さらに大型になる。花期は3-5月、花の直径は2-2.5cmで、淡紅紫色である。花弁の縁は波状となり、側弁の基部には毛がある。複葉のスミレは、本種とヒゴスミレなど少数である。本州、四国、九州に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2016)改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科~センダン科, 604pp. 平凡社, 東京.  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部(益田市、吉賀町)で確認されている。生育環境は、山地の夏緑広葉樹林の林内で、やや明るい林床である。

### 存続を脅かす原因

園芸上の採取、雑木林の手入れ不足による林内の常緑広葉樹林化。  
 (執筆者: 井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

スミレ科

# ニオイタチツボスミレ

*Viola obtusa* (Makino) Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。また生育環境である草原は、管理放棄により遷移が進行し、各地で減少している。

### 概要

丘陵地や山地などのやや明るい林内や開けた草原などに生える多年草である。草丈は5-15cmになる。地上茎をもつが、花期には地上茎は短く、無茎のようにみえる。短い地下茎をもち、そこから根出葉を出す。葉身は長さ1-3cmで、円心形~心形である。花期は3-5月で、花の大きさは直径1.5-2cm、青紫色~濃赤紫色で、中心は白色である。花茎にはふつう白い短毛がある。しばしば芳香があり、名の由来となっている。北海道(道南)、本州、四国、九州、台湾に分布する。

### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2016)改訂新版 日本の野生植物 3 バラ科~センダン科, 604pp. 平凡社, 東京.  
 枚村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、火入れや草刈りにより維持されている、山麓の明るく開けた草原内である。

### 存続を脅かす原因

管理放棄や遷移の進行による草原の灌木化、樹林化。  
 (執筆者: 井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

スミレ科

# シコクスミレ

*Viola shikokiana* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地は少なく、環境が変化すればそれぞれの個体群が消滅する可能性がある。

### 概要

無茎のスミレで、地下茎が長く伸び、節間も長く伸びる。このため広く群生することがある。葉は平開し、葉身は薄く、卵円形から広卵心形で先端は急に尖り、基部は深い心形、表面は鮮緑色でやや光沢がある。長さは2-5cmになる。葉柄は4-15cmで花は4-5月に咲く。花は5-10cmの花茎の先に咲き、花弁は細く白色で脈が紫色になり、長さ9-15mm。萼片は狭披針形で、付属体は2裂する。花柱は虫頭状に膨らみ、柱頭は短く突き出る。本州(関東地方から中国地方)・四国・九州の太平洋側の山地に分布し、ブナ帯で見かける。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部での生育が報告されている。山域の谷の斜面や湿った林床などにまれに見られ、生息地では群生した状態を確認できる。

### 存続を脅かす原因

伐採による乾燥化などが心配される。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ムクロジ科

# アサノハカエデ

*Acer argutum* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):青木充之



### 選定理由

生育地は限られ、個体数も多くない。

### 概要

夏緑性の雌雄異株の樹種で高さ8mになる。1,2年生の枝には白色の短屈毛を生じる。葉身は長さ4-8cm、幅5-10cmで、5浅裂から中裂する。裂片のは尾状鋭尖頭で、基部は心形または切形になる。縁には細かい重鋸歯があり、裏面には白色の短屈毛が生える。葉柄は3-10cmで葉身より長い。花は春に葉と同時に咲き、雄花序は束状で7-10花つき、花柄は1.5cmほどで垂れ下がる。雌課所は散房状で基部に1対の葉をつける。果実は8-9月に総状にぶらさがり、分果は長さ2-2.5cmで水平に開く。日本固有で本州(福島県以南)・四国に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部に生息し、中国山地のブナ帯の上部の谷筋などに生育する。

### 存続を脅かす原因

伐採、遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ムクロジ科

# モクゲンジ

*Koelreuteria paniculata* Laxm.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):野津貴章



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

夏緑性の樹木で、かなりな大木となる樹種である。葉は1回羽状複葉、長さ30cm、幅15cmばかりで、小葉は長さ7-8cm、幅4-5cmで7-8対。花は初夏の頃、枝先に円錐状の大きな花序に黄色の小花を多数つけて、時に美しく咲く。果実が特徴的であって、長さ5cm、幅3cm程で卵形の風船状に膨れたもので、中に黒色球形の種子が数個ある。国内での分布は本州のおもに日本海側の海岸にあって、朝鮮半島、中国に続くものである。

### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版日本の野生植物3」,338pp.平凡社  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3):1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

県内では隠岐諸島と出雲部の海岸に生育地がある。多くは海岸の露岩崖地や崖錐地などの不安定立地に生育している。寺院などによく植えられるので、中国からの渡来と考えられていたが、国内での分布状況や、県内での生育地の状況から考えると県内の生育地のものは自生としてもよいように思える。

鹿島町武代の丘陵地、島根町大芦須々海海岸、美保関町北浦・七類惣津の海岸で確認している。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開、海岸の開改行為。

(執筆:野津 貴章・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ミカン科

# フユザンショウ

*Zanthoxylum armatum* DC. var. *subtrifoliatum* (Franch.) Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

産地は点在するが、個体数は多いものではない。各個体を保護する必要がある。

### 概要

常緑の低木で、高さ1.5-3mになる。茎の刺はふつつ対生し、5-20mmと長い。葉は3-7枚の小葉からなり、長さ5-15cm、幅1-3cm。先はとがり、基部は鋭形。基部に腺体のある鈍鋸歯がある。花は5月に円錐花序をつくり、密生し、雌雄異株。花被片8枚で狭披針形、先はとがり長さ1mm、雄花は雄蕊は8個だが、数個が退化している。果実は2-3の分果になり、楕円状球形、長さ4mm。表面に多くのいぼ状突起がある。国内では本州(宮城県以南)から南西諸島に分布し、朝鮮半島南部・台湾・中国に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2016)「改訂新版 日本の野生植物Ⅲ」,338pp.株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3):1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育が見られる。丘陵域の岩の多い斜面などにまれに生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

アオイ科

## ヘラノキ

*Tilia kiusiana* Makino et Shiras.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



## 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

## 概要

夏緑の樹種で樹高は10数mとなる。葉は葉身が三角状卵形で長さ6—8cm、幅3—4cmで基部は左右が不对称形であることは特徴的である。先端は尾状に伸びる。葉柄は1cm程と短い。花は初夏の頃に、葉柄の基部に長さ約5cmの花序をつけて淡黄色の小花を10個前後つける。仮雄蕊が花弁状で目立つ。総包葉は狭長楕円形で、この植物の仲間の特徴的な形のものである。果実は直径約5mmの球形で白色の短毛が密生する。分布は本州では兵庫、奈良、山口、そして四国の一部と九州にあり、本州ではまれな植物である。

## 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県西部（浜田市、益田市、津和野町、吉賀町）に知られている。夏緑二次林内の斜面に生える。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ジンチョウゲ科

## コショウノキ

*Daphne kiusiana* Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者): 柳浦正夫



## 選定理由

本来個体数の少ないもので、人為的影響の大きい立地に生育することにより減少が心配される。

## 概要

暖地に生える常緑樹で約1mほどになる。枝は細く、暗紫褐色で無毛。葉は互生し、やわらかく長楕円状または楕円状倒披針形で、長さ4—16cm、幅1.5—4cm、鋸歯はなく、先端は鋭形、基部はくさび形で短かい柄がある。花は早春で、頭状花序となり、10花ほどがまとまってつく。花は白色、萼筒は外側に細毛があり、長さ8—10mm。裂片は卵形で開出する。子房は楕円形で無柄で有毛。液果は楕円形で初夏に橙赤色に熟す。国内では本州（関東南部・京都府以西）から南西諸島まで分布し、朝鮮半島南部に見られる。

## 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」, 348pp. 株式会社平凡社, 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

隠岐を含めて、全域の海岸近くの丘陵地の陰湿な谷部などに生育している。

## 存続を脅かす原因

植林地などでは下草刈りのため刈り取られる状況にある。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

アブラナ科

# ミスタガラシ

*Cardamine lyrata* Bunge

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):辻井要介



### 選定理由

もともと県東部にまれに分布する種であったが、生育環境が悪化し減少している。

### 概要

本州、四国、九州の湖沼や溜池、河川、水路、水田などに生育する越年生または多年生の沈水・湿性植物。春に見られる株は茎が直立し、長さ1-7cmの羽状複葉をつける。茎は30-70cmに伸び、先端の花序には4枚の純白の花弁を持つ花を多数咲かせる。花が終わると直立茎は倒れて目立たなくなる。夏になると茎は走出枝を出し、卵円形の葉を互生させて匍匐する特徴がある。水中では沈水形となり、葉は赤みをおびる。

#### 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草Ⅰ. 326pp. 文一総合出版, 東京.  
杉村喜則 (2006) 島根県の植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告, 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県東部の出雲平野に生育地が点在して確認されている。水田の畦や水路、遊水池、河川のヨシ原の水際部に生育する。近年、まとまって生育が見られた水田や水路は圃場整備により生育環境が消滅している。

### 存続を脅かす原因

除草剤の使用、圃場整備による水路のコンクリート化、水田の乾田化など。

(執筆: 辻井 要介)

## 準絶滅危惧 (NT)

オオバヤドリギ科

# オオバヤドリギ

*Taxillus yadoriki* (Siebold ex Maxim.) Danser

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):野津貴章



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。

### 概要

照葉樹林内のカシ、シイ、タブノキなどに寄生する常緑樹で、茎はややつる性で1mほどに伸びる。若枝には赤褐色の毛が密生する。毛は太い軸から数段に星状に分枝する。葉は革質で対生し、葉柄は長さ8-15mmで、葉身は卵形から広楕円形で長さ2-9cm、幅1.5-5cmで先は丸いか鈍く、基部は鈍形で全縁。表面は無毛だが、裏面に赤褐色の樹状毛が密生する。花は9-12月に枝の腋や葉の落ちた跡の脇に短い花序をのびし、数個の花をつける。花は9-12月、花被片は細長い筒型で外は赤褐色、中は紫黒色、4裂し、1.5-2.1cmになる。果実は広楕円形で長さ12mmに達し、黄色に熟する。国内では本州(関東地方南部以西)・四国・九州・南西諸島に分布し、韓国(済州島)にも分布する。

#### 参考文献

大橋広好他 (2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」.348pp. 株式会社平凡社,東京  
秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部までの生育が報告されている。同地域の沿岸域の照葉樹林にまれに着生している。また、隠岐(島後、西ノ島)に生育するとの報告もある。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

タデ科

## マダイオウ

*Rumex madaio* Makino

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



## ■ 選定理由

県内での生育地は限られている。

## ■ 概要

川辺の水湿地などに生えるやや大型の多年草。開花株は高さ1m前後に茎を立て、長楕円形で長さ30cm、幅10cmばかりの葉を互生する。花は初夏の頃に咲き、茎の上部に枝を分け、花は円錐花序状に多くつける。日本の固有種で本州(宮城県、山形県以南)~九州に分布する。

## ● 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

東部と中部での生育が報告されており、山間の水田脇や小川の辺りの湿地に見られる。

## ■ 存続を脅かす原因

用水路、小河川の改修工事、水田の区画整理の際に生育地が消滅した所もある。洪水による自然災害。

(執筆者: 柳浦 正夫・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

モウセンゴケ科

## モウセンゴケ

*Drosera rotundifolia* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 青木充之



## ■ 選定理由

生息地も個体数も少ない。環境が変わりやすくてやすく消滅してしまう可能性がある。

## ■ 概要

酸性の湿地に生える多年草。根出葉の葉身は倒卵状扁円形で、長さ5-10mm、表面に長い腺毛がある。基部は細くなって柄になる。6-8月に6-20cmの花茎が伸び、総状花序に3-4花を咲かせる。萼片は長楕円形で、長さ4-6mm、縁に短い腺毛がある。花弁は白色で長さは萼片の2倍となる。蒴果は長楕円形で長さ4-5mmになる。国内では南千島・北海道から九州に分布し、千島列島・サハリン・朝鮮半島・北半球の温帯から亜寒帯にかけて広くみられる。

## ● 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

東部から西部にかけて点々と確認されている。山域の湿地に生育するが、低地で、また狭くても、水が染み出す立地で草丈の高い草に覆われていない場所では生育が見られることがある。また、島後に生育するとの情報もある。

## ■ 存続を脅かす原因

県内ではそれぞれ狭い立地にわずかに生育しているという状況なので、遷移や草刈の管理放棄などが心配される。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ナデシコ科

## ナンバンハコベ

*Silene baccifera* (L.) Roth var. *japonica* (Miq.) H. Ohashi et H. Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):野津貴章



## ■ 選定理由

もともと少ないものであり、人為的な影響や遷移による環境変化などで生育できなくなる種である。

## ■ 概要

草むらや丘陵域の林縁などに生育し、長く伸びて1.5m以上になる多年草。茎には細毛がある。葉は広披針形から卵形、長さ2-5cm、幅1-2.5cmで先は、鋭尖形。葉柄は1-4mm。花は7-10月で、枝頂に単生し、多少下を向く。萼は緑で5中裂する、裂片は長卵形で、鋭頭。花弁のつめ分は、春に咲き、茎の上部の葉腋に長い花柄を出し、柄の先に白花5弁の小花を1個だけつける。国内では本州(岩手県以南)・四国・九州に分布し、中国大陸にも分布するとされる。

## ● 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部で確認されている。丘陵域の林縁等にまれにみられる。

## ■ 存続を脅かす原因

除草。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

アジサイ科

## ヒメウツギ

*Deutzia gracilis* Siebold et Zucc. var. *gracilis*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):柳浦正夫



## ■ 選定理由

生息地も個体数も少ない。環境が変化しやすく、各地で個体数の減少が心配される。

## ■ 概要

落葉低木で高さ1.5mくらいになる。よく分枝し、今年枝はやや褐色を帯びた緑色で、無毛。葉柄は3-7mm、葉身はやや薄く、長楕円状披針形から狭卵形、先は鋭尖形、基部は広くさび形または円形となり、長さ4-8.5cm、幅1.5-3cmになる。また、葉の表面には4個前後の枝をもつ星状毛を散生するが、裏面は淡い緑色で星状毛を欠く。花期は5-6月で、今年枝の先端に複2出集散花序を形成する。花は計1.4cmほどで、花弁は白色で広倒披針形で先は丸いか鈍頭になる。蒴果は楕形で、先は切形ですこしくぼみ、径3-4mm。花柱と萼裂片が宿存する。国内では本州(福島県以西)・四国・九州に分布する。

## ● 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育地が点在している。丘陵域の明るい岩角地にまれな生育が見られる。

## ■ 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

カキノキ科

## リュウキュウマメガキ

*Diospyros japonica* Siebold et Zucc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):野津貴章



## 選定理由

生育地も個体数も少ない。

## 概要

低山地に生える落葉高木で、15mほどになる。若い枝には毛があるが、のちに無毛となる。葉柄は1-3cmと長く、葉身は狭卵形から楕円形で長さ7.5-17.5cm、幅3.5-7.5cmとなり、裏面は灰白色で、先端は鋭尖頭、基部は丸くて、ときに切形となる。雄花は集散花序で萼裂片、花被片は4裂、雄蕊は16本、雌花は単生、または2-3個が束生し、花冠は黄色を帯びる。液果は白色を帯びた橙黄色で後に赤く熟し、径113-16mmとなる。本州(関東地方南部以西)・四国・九州・南西諸島に分布し、台湾と中国(中部・南部)に見られる。

## 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部と中部での生育が報告されている。同地域の丘陵域にまれな生育が見られる。

## 存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ハイノキ科

## クロバイ

*Symplocos prunifolia* Sieb. et Zucc.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



## 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

## 概要

常緑の高さ10数mになる樹種。若木の樹幹には特徴的な白点状の皮目があって目立つ。葉は楕円形で長さ7-8cm、幅2-3cmで互生する。花は春に咲いて、前年枝の葉腋に5cmばかりの花序を出し、径約1cmの白色花を総状に10数花つける。果実は長さ6-7mmの卵形で黒く熟れる。本州(関東地方以西)・四国・九州・琉球に分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)を含めて、東部から西部までの丘陵域からの報告がある。島後での生育は北限となるが、現状は不明である。照葉樹林域内に稀に生育している。

## 存続を脅かす原因

森林伐開。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ハイノキ科

# サワフタギ

*Symplocos sawafutagi* Nagam. var. *sawafutagi*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生息地が少なく、個体数も多くない。

### 概要

山地に生える落葉低木で、2-4mになる。葉身は倒卵形から楕円形で長さ3-8cm、幅1.5-4cm。先端は急に細く尖り、基部はくさび形。表面は光沢なくまばらな圧毛、縁には細鋸歯がある。花は5-6月。長さ2-6cmの円錐花序をつくり、萼は5裂、花冠は白色で5深裂し、長さ3-4mm。果実はゆがんだ卵形で、青色に熟す。国内では北海道から九州まで分布し、朝鮮半島・中国に見られる。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)と東部から西部まで生育が報告されている。島後や中国山地の山頂や稜線部にややまれに生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ツツジ科

# ウメガサソウ

*Chimaphila japonica* Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地林内の林床などに生える常緑の小低木である。地下茎は長くはい、そこから直立する高さ5-10cmの地上茎を出す。葉は長さ2-3.5cm、幅0.5-1.3cmの長楕円形で、縁にはとがった鋸歯がある。花期は6-7月で、茎の先に1個の花をつける。花は直径約1cmで、白色の5つの花弁をもつ。北海道から九州、南千島、サハリン中部以南、朝鮮半島、中国(中部・東北)、台湾に分布する。

#### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・畠田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科, 606pp. 平凡社, 東京.  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町)、県東部(松江市、出雲市)、県中部(大田市)で確認されており、隠岐諸島(西ノ島町)、県東部(出雲市)での標本情報もある。生育環境は、夏緑広葉樹林やマツ林のやや明るい林床である。

### 存続を脅かす原因

園芸上の採取、森林伐採。

(執筆:井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

ツツジ科

# レンゲツツジ

*Rhododendron molle* (Blume) G.Don subsp. *japonicum* (A.Gray) K.Kron

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地はやや限られていて、生育地及び個体数が減少しつつある。

### 概要

夏緑性の樹木で高さ1-2mの低木である。葉は倒披針形で長さ7-8cm、幅2-3cmで枝先に束生する。花は春に咲いて、枝先の短い総状花序に直径約5cmのやや大きい赤橙色の色を5-10花つけて目立ち、時に美しく咲く。国内では本州、四国、九州に分布する。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット, <https://science-net.kahaku.go.jp/>, (2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内全域の山地に小規模な生育地が点在する。多くは湿地、湿原状地に生えるが、しばしば、やや乾燥気味な山地草原、林縁草地にまで生える。

### 存続を脅かす原因

園芸上での採取も考えられるが、遷移による樹林化等の生育地の環境変化が大きく考えられる。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ツツジ科

# ゲンカイツツジ

*Rhododendron mucronulatum* Turcz. var. *ciliatum* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 津島辰雄

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内では生育地がきわめて限られている。一部では植生遷移により絶滅が危惧される。

### 概要

夏緑低木のツツジ類の一種類で、多くは岩上に生育し、基部から多くの枝を出して叢生する。葉は長さ5cm程、巾2-3cmの楕円形で先端に腺状突起がある。花は早春、葉に先立って咲き、径4cmばかり、淡紫紅色で5深裂の花冠を有する。本州の中国地方、四国、九州の北部から朝鮮半島にかけて分布域がある。

### 参考文献

大橋広好ら編 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物4」348pp.平凡社.東京  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告3:1-49, 三瓶自然館, 島根

### 県内での生育地域・生育環境

県西部にのみ生育が知られ、個体が群生する地は露岩地の岩上で上層を樹木が被うことのない場所である。

### 存続を脅かす原因

遷移による樹林化、園芸上での採取。

(執筆: 津島 辰雄・松村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

アカネ科

# クルマバソウ

*Galium odoratum* (L.) Scop.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

—
---

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

山地の夏緑広葉樹林の林床などに生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと20—30cmになる。葉は長さ1.5—4cm、幅3—13mmの長楕円形で、6—10枚が輪生する。葉柄はなく、中脈が目立つ。花期は5—7月で、茎の先に4—15個に花をつける。花冠は直径2—5mm、白色で漏斗形をする。植物体はクマリンの香りがする。北海道、本州、南千島、朝鮮半島、サハラ以南からヨーロッパ、北アフリカに分布する。

#### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編 (2017) 改訂新版 日本の野生植物 4 アオイ科~キョウチクトウ科. 606pp. 平凡社, 東京.  
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)、県東部(奥出雲町、出雲市)、県中部(大田市)で確認されている。生育環境は、夏緑広葉樹林の林内や林縁で、やや明るい場所である。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、夏緑広葉樹林の下層の常緑広葉樹の繁茂。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

アカネ科

# ソナレムグラ

*Hedyotis strigulosa* (Bartl. ex DC.) Fosberg var. *parvifolia* (Hook. et Arn.) T.Yamag.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

—
---

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

生息地が限定されており、環境の変化により個体数が減少する可能性がある。

### 概要

海岸の岩上や崖地に生える多年草で、茎は基部から枝分かかれし、直立または斜上し、5—20cmになる。葉身は多肉質で光沢があり、長楕円状または倒卵形で、鋭頭または鈍頭で、全縁、基部は漸鋭尖形、短い葉絵があり、全体で長さ0.6—2.5cm、幅0.3—1.2cmとなる。花は8—9月、枝先や上部の葉腋に1から十数個の花をつける。花の萼筒は鐘型で、裂片は三角形~卵形で長さ1—1.5mm。花冠は白色となる。蒴果は倒卵状球形で、鈍頭、先に4個の萼裂片が宿存する。国内では本州(関東以西)から南西諸島、伊豆諸島(鳥島以北)に分布し、台湾・中国。東南アジアに広く分布する。

#### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物IV」. 348pp. 株式会社平凡社, 東京.  
 秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育が報告されている。沿岸部の岩の隙間などに根をおろし生育している。

### 存続を脅かす原因

海岸部で遷移が進み、樹木や他の草本が進出した場合絶滅が心配される。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

アカネ科

# イナモリソウ

*Pseudopyxis depressa* Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山地に生える多年草。植物体は地を這う根茎があって、先で直立する地上茎となり、卵形で長さ3-4cm、幅2-3cmの葉を対生して、草丈は5cm前後のもの。花は春に咲いて、多くは葉腋に1個の淡紅紫色の花冠をもつ花をつける。花冠は筒状で長さ2cmあまり、先は5裂片に裂け、開く。本州は関東地方以西、四国、九州に分布する。

#### 参考文献

大橋広好ら編(2017)「改訂新版 日本の野生植物4」348pp.平凡社.東京

### 県内での生育地域・生育環境

県内での生育地はまれであって、東部に2-3の生育地が知られており、中部でも1か所生育地が確認されている。山地での林道沿いの斜面や岩場などに生えている。出雲部では開発事業により、生育地が消滅した場がある。

### 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化、人為による生育地の破壊。

(執筆: 津島 辰雄・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

アカネ科

# クルマバアカネ

*Rubia cordifolia* L. var. *lancifolia* Regel

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

生息地が少なく、個体数も多くない、環境が変化しやすく、生息できなくなることが考えられる。

### 概要

海岸近くの林縁などに生える多年草で、茎は4稜あり、稜上に下向きのとげがあって、これで植物にひっかかり、斜上しながら他の植物の上になることができる。葉は主軸には6-8枚、側枝には4枚の葉が輪生し、葉身は卵形で鋭頭または短く鋭尖頭で基部は円形、長さ1-3.5cm、幅0.5-1.5cm。葉柄は1-3cmとなる。花は9-10月。集散花序をつけ、花冠は黄緑色で長さ1.5-2.5mm、4または5裂片となる。液果は球形で径4-6mm、黒く熟す。国内では本州(和歌山県西部・中国地方)・四国(瀬戸内海沿岸)・九州北部・朝鮮半島・中国(東北部)・ウスリー・アムールに分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物IV」.348pp.株式会社平凡社.東京  
杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部の砂質海岸の内陸側に生育が見られる。遷移の進行により生存できなくなると考えられる。島根半島での分布は国内での北限と考えられる。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キョウチクトウ科

# オオカモメヅル

*Vincetoxicum aristolochioides* (Miq.) Franch. et Sav.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

—
---

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。路傍に生えるため刈り取られる危険性が高い。

### 概要

山の林内に生育するつる性の多年草。葉は対生し、葉柄は1—3cm、葉身は薄く、三角状卵形で先は長くとがり、基部はやや張り出して心形となる。花は7—9月、花序は葉腋から出て、花は短い花序軸の先にまばらにつける。花柄は3—10mm、萼は5裂し無毛、裂片は小さくやや鋭頭。花冠は淡暗紫色で5深裂し、径4—6mm。裂片には少し白い綿毛が生える。副花冠は星状に開出し、雄蕊より短い。袋果は線状披針形、柄の先に2個が水平に開出し、5—7cmで無毛。北海道~九州に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp.株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐を含めた全域からまれな生育が報告されている。全域の丘陵域から山域にかけての林縁などに生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移、刈取。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キョウチクトウ科

# ツルガシワ

*Vincetoxicum macrophyllum* Siebold et Zucc. var. *nikoense* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

—
---

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。

### 概要

山の林床に生える多年草。茎は高さ50—100cmで、先はつる状に伸びる。中央付近に数対の大きな葉をつけ、上部の葉は極端に小さくなる。葉は対生し、卵円形から広楕円形で中央の葉は長さ12—25cm、幅7—15cm、先は鋭くとがり、基部は円形またはややくさび形。3—6mmの葉柄をつける。花は7—8月に上部の葉腋に2—5cmの短い花序を出して咲く。花冠は暗紫色で径6—10mm。裂片は内側に白毛があり、披針形で鈍頭。袋果は線状披針形で毛はなく、長さ5—8cm、幅4mmほどとなる。本州・四国・九州に分布する。

#### 参考文献

北村四郎他(1957) 原色日本植物図鑑・宿羽片編 I 297pp.株式会社保育社 東京  
 大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」,348pp.株式会社平凡社,東京  
 大井次三郎・北川政夫(1992) 新日本植物誌頭花編, 1716pp.至文堂, 東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部にかけて生育が見られる。山域のやや湿った林床や谷部などにまれに生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

### 特記事項

以前は中国地方西部・九州・四国のもは花序が大きく2—5cmの長い花柄があるとしてツクシガシワ *Cynanchum grandifolium* Hemsl. var. *gradifokium*に、本州と四国のもは花柄がごく短いことからツルガシワ *Cynanchum grandifolium* Hemsl. var. *nikoense* (Maxim.) Ohwiとされていた。このため島根県の本種はツクシガシワとされていた。しかし、今回「改訂新版 日本の野生植物Ⅳ」では両者を区別しない扱いとなっている。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キョウチクトウ科

# スズサイコ

*Vincetoxicum pycnostelma* Kitag.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

生育地は県全域に点存しているが、生育地での個体数は激減または消滅寸前の場合が多い。

### 概要

日当たりのよい草地に生える夏緑性の多年草。茎は高さ30—50cmで、線状長楕円形で、長さ7—8cm、幅1cm前後の葉を対生させる。花は夏に咲き、茎の上部の葉腋につく集散状の花序に黄褐色の花をまばらにつける。果実は袋果で披針形、長さ5—8cmである。北海道から本州、四国、九州に分布して、朝鮮半島、中国に続く分布がある。

#### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 丹後亜興 (2020) 隠岐の海岸植物リスト. 隠岐の文化財 37: 52-59.

### 県内での生育地域・生育環境

県内の山地草原、林縁の草地、溜池の土堤などの草地に生える。林縁や溜池の土堤などの草地では遷移によって個体群が消滅した所が多くある。

### 存続を脅かす原因

遷移による生育地の環境変化。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ヒルガオ科

# アオイゴケ

*Dichondra repens* Forst.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地は集落周辺にあり、生育地破壊の危険性が大きい。

### 概要

地を這う小型の多年草であり、葉は円腎形で、長さ、幅とも1—2cm程のものである。花は春から夏にかけて咲き、目立たない花であるが、径3mmばかりの小花で、花冠は5裂して黄色である。本州(西南部)・四国・九州・南西諸島に分布し、世界の亜熱帯~熱帯にまで広く分布する。県内での生育地はこの植物の分布北限域になる。

#### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物V」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

島根半島の東端部にのみ生育地が知られている。生育は石畳の間や集落付近、墓地、施設内等である。県内の生育地はこの植物の分布北限と考えられる。

### 存続を脅かす原因

とても小さな植物で、選択的に除草されたりすることはないが、他の草の除去を目的として除草剤が散布された場合は意識されないうちに無くなってしまいう危険性がある。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ナス科

# ヤマホオズキ

*Physalistrum chamaesarachoides* (Makino) Makino

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):柳浦正夫

### 島根県固有評価

-

### 環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類 (VU)



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。

### 概要

山地のやや陰湿な林下に生える多年草で、草は直立し、枝分かれしなから30-50cmほどになる。葉身は薄く卵形で、長さ5-12cm、幅2.5-7cmで、先はしだいの細く尖り、下部もしだいにせまくなり1-5cmの葉柄となる。花は8-9月で、葉の腋に1個の白色で杯形の花をつける。果期には萼は先が小さくなって果実を包み、長さ12-15mmで、10本の陵がある。液果は球形で径1cmで黄色く熟す。本州(関東南部・東海・紀伊半島南部)～九州・台湾・中国に分布する。

### 参考文献

広江伸作 (2004) 植物観察記録、島根植物研究会会報5:4-5 島根植物研究会  
大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部と中部で記録されている。同地域の丘陵域にまれな生育が見られ、川沿いなど湿った環境に生育している。

### 存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ナス科

# イガホオズキ

*Physalistrum echinatum* (Yatabe) Makino

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):柳浦正夫

### 島根県固有評価

-

### 環境省カテゴリー

-



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。

### 概要

山地の林下に生える多年草で、草は枝分かれしながら50-70cmほどになる。葉柄は2-4cmで、葉身は卵形または広卵形で、長さ4-13cm、幅3-10cmで、先は急に細く尖り、下も急に狭くなり柄となる。花は6-8月で、葉腋に1-4個の下垂る花をつける。花冠は黄白色で広い釣鐘状となる。液果は下垂し、球状で径1cm、白色に熟す。北海道から九州・朝鮮半島・中国(北部・東北部)に分布する。

### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
秋村喜則 (2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3) : 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐と東部から報告されている。同地域の丘陵域から山域のやや湿った林縁等にまれな生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ナス科

# ハシリドコロ

*Scopolia japonica* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内では生育地が限られている。

### 概要

山地の谷沿いなどに生育する多年草で、高さ30—60cmになる。葉は柔らかく、長楕円形で長さ6—18cm、幅2.5—6cm。先は尖り、基部はくさび形で葉柄につながる。花は4—5月で、花冠は外面が暗紅紫色で内面は黄緑色。長さ2cmになる。果実は球形で径1cm、種子は長さ3mmになる。国内では本州~九州に見られ、朝鮮半島に分布する。

### 参考文献

井上雅仁(2019) 松江市植物目録(シダ植物を除く維管束植物)。松江市史編集委員会、松江市史史料編1 自然環境、松江市、608-634  
 大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社.東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部での生育が報告されている。県境部の中国山地の溪谷に稀な群生が見られるが、同地域の丘陵域に近いところにも生育が報告されている。また、島後に生育していたとの情報もある。

### 存続を脅かす原因

大雨での氾濫、草刈、森林伐採などが心配される。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ナス科

# ハダカホオズキ

*Tubocapsicum anomalum* (Franch. et Sav.) Makino var. *anomalum*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):野津貴章



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。

### 概要

山地の谷沿いなどに生育する多年草で、よく分枝して高さ60—90cmになる。葉は、卵形で長さ6—23cm、幅3—9cm。先は尖り、基部はくさび形で葉柄につながる。花は8—9月で、葉腋から細い柄のある花を下向きにつくる。花冠は淡黄色で、長さ4mm、径約6mmになる。液実は球形で径8mmとなる。国内では本州~南西諸島に見られ、台湾・中国南部・東南アジアの熱帯から亜熱帯に広く分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社.東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐と東部から西部まで生育が報告されている。同地域の沿岸域から丘陵域のやや湿った場所でまれに生育が確認されている。

### 存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ムラサキ科

# ホタルカズラ

*Aegonychon zollingeri* (A.DC.) Holub

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はまれであって、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山地の草地に生える多年草。草丈は20cm前後で、葉は狭長楕円形で長さ5cm、幅2cm前後で互生する。花は春に咲き、茎の上部の葉腋に直径約1.5cmの青紫色の花をつける。花冠は漏斗状で先が5裂片に裂け、裂片の基部に白い隆起線があり、特徴的である。花後、茎の下部から長い枝が出て、先で発根し、新しい株をつくる。北海道から本州、四国、九州、南西諸島に分布して、朝鮮半島、中国にもある。

### 参考文献

廣江伸作 (2024) 安来市の植物誌-維管束植物-, 64pp.  
 国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内では海岸沿いの土地に生育地があり、林縁、山地路傍など崖錐状地の草地に生える。時に海岸クロマツ林内、林縁にも生える。

### 存続を脅かす原因

生育地の遷移による環境変化。

(執筆者: 井上 雅仁・松村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ムラサキ科

# オニルリソウ

*Cynoglossum asperinum* Nakai

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—

撮影者(提供者): 柳浦正夫



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。環境の変化を受けやすい立地に生育する。

### 概要

山野にはえる越年草で、高さ60—120cmになる。全体に粗い開出毛が多い。葉は短い柄があって長楕円形から披針形となり、長さ10—20cm、幅2—3.5cmで先と基部は尖る。花は6—8月に咲き、花序は枝先から数本互生して斜上し、総状花序をつくる。花は径3mm、花弁は淡青紫色、分果はやや扁平な楕円形で長さ3mmほどになる。国内では南千島・北海道から九州に分布し、朝鮮半島に見られる。

### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物V」, 474pp. 株式会社平凡社, 東京  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで報告されている。丘陵域から山域にかけてまれに生育している。また、島後に生育するとの情報もある。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

モクセイ科

# シオジ

*Fraxinus platypoda* Oliv.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):津島辰雄



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。

### 概要

山の谷間に生える落葉高木。高さ25m以上にもなる。葉は7-9小葉に分れ、葉身は長さ25-35cmになり、葉柄基部は著しく膨らむ。頂小葉は長楕円状倒披針形で、長さ8-20cm。1-2cmの柄がある。側小葉は柄がなく、基部が著しく膨らみ、細鋸歯がある。花序は落葉した前年の葉腋に出て、長さ10-15cm。花は4-5月に咲き、花冠がない。雄性両性異株となる。翼果は狭長楕円形で長さ3-5cm。幅8-15cmで下垂する。本州(関東地方以西)・四国・九州に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」,474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部に生育している。山地の渓谷にまれな生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

モクセイ科

# ヤナギイボタ

*Ligustrum salicinum* Nakai

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

### 概要

夏緑性の高さ5m程になる低木である。葉は楕円形で両端はとがり、長さ10cm、幅3-5cmで対生する。花は初夏に咲き、枝先の大きい円錐花序に白色小花を多数つける。花冠は筒状で中程から先で4裂し、裂片は開花時にやや反曲して咲く。果実は黒く熟れる。国内では本州の近畿以西、四国、九州に分布し、朝鮮半島南部にも分布するとされる。

### 参考文献

国立科学博物館(2018)サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 丹後亜典(2021) 隠岐の北限植物。隠岐の文化財 38: 30-50.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町)、県東部(出雲市、雲南市、奥出雲町)、県中部(大田市)の山地に生育地が知られているが、石見部では不明である。多くは山地の夏緑二次林内、崖錐状地に生えている。

### 存続を脅かす原因

樹林伐開と生育地の照葉樹林化による環境変化。

(執筆:井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

モクセイ科

# ヒイラギ

*Osmanthus heterophyllus* (G.Don) P.S.Green

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):野津貴章



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。

### 概要

山地に生える常緑小高木で、4—8mになる。葉は楕円形から倒卵状長楕円形で、長さ3—5cm、幅2—4cmで、厚くて硬い。また、成木では全縁であるが、若木では縁に2—3対の鋭い刺がある。花は11月ごろ葉腋に束生し、白花で香る。花冠は長さ4mmになる。雄性両性異株。核果は楕円形で翌年7月ごろ黒紫色に熟す。国内では本州（関東以西）・四国・九州・琉球に分布し、台湾にも見られる。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで確認されている。沿岸域の照葉樹林の林床などに点々と見られる。

### 存続を脅かす原因

森林伐採。

(執筆者:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

オオバコ科

# マルバノサウトウガラシ

*Deinostema adenocaulum* (Maxim.) T.Yamaz

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介



### 選定理由

県内では水田にまれに生育するが、生育地の状況は脆弱である。

### 概要

北海道を除く全国各地の水田などに生育する一年生の抽水～湿性植物。茎は下部で分枝しながら直立し、高さ10—20cmになる。葉は無柄で対生する。近縁種のサウトウガラシは葉が線状披針形であるのに対し、本種の葉は卵形で丸みがあることが和名の由来。葉の長さは5—8mm。花は紫色の唇形花で長さ1—2cmの柄がある。花期は8—10月。さく果は楕円形から広楕円形。秋になると植物体全体が赤くなるため、稲刈り後の水田で目につきやすくなる。

#### 参考文献

宮田昌彦・谷城勝弘・山田寛治編(2025) マルバノサウトウガラシ。「水生・湿性植物生活史図鑑」: 462. 北隆館, 東京.  
 杉村喜則(2006) 島根県の植物相(補遺). 島根県立三瓶自然館研究報告. (4): 41-43.

### 県内での生育地域・生育環境

県東部や西部において生育が確認されている。近年は出雲市の一部の水田に生育が見られるが、生育範囲は狭く個体数も減少傾向である。山間部の水田に残存する可能性もあるが、耕作放棄地が増えつつあり本種の生育も懸念される。

### 存続を脅かす原因

除草剤の使用、ほかの植物による被覆、農業形態の変化による水田の乾田化と耕作放棄。

(執筆者:辻井 要介)

## 準絶滅危惧 (NT)

オオバコ科

## スズメハコベ(スズメノハコベ)

*Microcarpaea minima* (J.Koenig ex Retz.) Merr.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):辻井要介



## ■ 選定理由

県内では水田にまれに生育するが、生育状況は不安定である。

## ■ 概要

北海道を除く全国各地の水田などに生える一年生の湿性植物。茎は多分岐し、匍匐しながら地面に広がる。葉は狭長楕円形で、長さ3—5mm、幅約1mmと小さく、対生する。花期は7—10月。筒状唇形で淡紅色の小さな花が葉腋につく。花冠は小さく5裂して開出する。さく果は長楕円形で萼より短い。植物体が小さいため見逃しやすいが、水田の稲刈り後に生育し広がるため、見つけやすくなる。

## ● 参考文献

杉村喜則 (2005) 島根県の植物相。島根県立三瓶自然館研究報告, (3) : 1-49.

## ■ 県内での生育地域・生育環境

県内全域にまれに分布するとされるが、近年は主に県東部の水田地帯で生育が確認されている。出雲市の産地では、まとまって見られた環境でも年により生育しないことがある。適度に湿った土壌と日当たりのよい環境を好み、ほかの水田雑草が少ない環境が必要である。

## ■ 存続を脅かす原因

除草剤の使用、ほかの植物による被覆、農業形態の変化による水田の乾田化や耕作放棄。

(執筆: 辻井 要介)

## 準絶滅危惧 (NT)

オオバコ科

## カワヂシャ

*Veronica undulata* Wall.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



## ■ 選定理由

県内での生育地は点在して、多くはなく、生育地での個体数も多くはない。

## ■ 概要

おもに川の中や縁に生える越年草で草丈は約50cmになる。葉は披針形から長楕円状披針形で無柄、長さ7—8cm、幅2cmで対生する。花は春から初夏の頃に咲き、葉腋に長さ10cm前後の総状花序を出し、小花を多数つける。花冠は短い筒があって先は4裂片に裂け淡紅紫色、径3—4mmである。本州の中部以西、四国、九州、南西諸島に分布し、中国、東南アジアに分布が続く。

## ● 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/. (2025年10月30日閲覧)  
 杉村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

## ■ 県内での生育地域・生育環境

県内では限られてはいるが生育地が点在する。平野部から山地の河川水辺に生育するが個体数は多くはない。生育地は年毎にかなり移動することもあり、消滅する場所、新たに生育が確認される場所がある。

## ■ 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化、河川改修工事等による生育地の破壊。  
 (執筆: 井上 雅仁・枚村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ゴマノハグサ科

## トウテイラン

*Pseudolysimachion ornatum* (Monjusz.) Yamazaki

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類(VU)



## 選定理由

県内では隠岐諸島にのみ生育がある植物で、個体数も比較的多いが、県外の生育地はきわめてまれであって、個体数も多くはなく、絶滅が心配される所もある。

## 概要

海岸の斜面ややや堆積物の見られる岩上に生える植物で、草丈は50cmばかりとなり、数本の茎を立てて、株状をなす。植物体全体が白色の綿毛に被われていて、特に葉裏は白色そのものである。葉は長楕円形、長さ5cmばかりで対生する。花は夏に咲き、茎の上部の穂状の花序に青紫色の小花を多数つける。隠岐諸島以外では鳥取県、兵庫県、京都府の日本海側の海岸の一部に分布するが、隠岐以外ではとても少ない。

## 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

隠岐諸島では全島に生えて、附属の小島などにも多く生える。海岸の岩上に生えるが、時に内陸の露岩上にも生えていることがある。

## 存続を脅かす原因

遷移による環境変化、園芸上の採取が心配される。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ゴマノハグサ科

## ムシクサ

*Veronica peregrina* L. var. *peregrina*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



## 選定理由

生育地も個体数も少ない。

## 概要

田畑の湿った場所にはえる1年草で、茎はまばらに分枝して高さ10-20cmになる。葉は下部で対生、上部で互生し、広線形から狭卵形で全縁か不明瞭な鋸歯があり、長さ8-25mm、幅2-5mm、先端はやや鈍頭、基部はしだいに狭くなり葉柄はない。花は4-5月、先端に柄のない穂状花序となり、花冠は白色で淡紅色を帯び、径2mmとなる。朔果は扁球形で先はややへこみ、長さ2-3mm。日本全土に生育し、北半球・オーストラリアに分布する。

## 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部から報告されている。低地域の水田などにやまれにみられる。

## 存続を脅かす原因

除草剤散布、耕作放棄。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

シソ科

## ヒキオコシ

*Isodon japonicus* (Burm.f.) H.Hara var. *japonicus*

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):柳浦正夫

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



## ■ 選定理由

生育地も個体数も少ない。

## ■ 概要

丘陵域のやや乾いた草地に生える多年草で、茎は4角の稜があり高さ50—100cmになり、密に下向きの細毛がある。葉は広卵形で長さ6—15cm、幅3.5—8cmで、先端は鋭尖頭で、基部はくさび形で急に細まり葉柄の翼につながる。縁に鋸歯がある。花は9—10月、円錐花序で多数つける。花冠は淡青紫色で、上唇には紫点がある。雄蕊は4本で、うち2本は少し長く、ともに花外に突き出る。株により長雄蕊・短花柱と短雄蕊・長花柱の2型がある。分果は長さ1.5mmで長球形になる。国内では北海道(西南部)から九州に分布し、朝鮮半島に見られ、種としては中国。ウスリーまで分布する。

## ● 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」,474pp.株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## ■ 県内での生育地域・生育環境

東部と西部から報告されている。山域の林縁の草地などにまれに生育が見られる。

## ■ 存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

タヌキモ科

## イヌタヌキモ

*Utricularia australis* R.Br.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):—

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## ■ 選定理由

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

## ■ 概要

全国の湖沼や溜池、水田などに生育する多年生の浮漂植物。タヌキモとよく似るが、タヌキモの花茎の断面の中央部には小さな穴があるのに対しイヌタヌキモは中実であること、タヌキモの殖芽が濃緑色の卵球形で大きさ5—20mmほどであるのに対しイヌタヌキモの殖芽が暗褐色の紡錘形で大きさ3—10mmほどであることなどで識別される。

## ● 参考文献

角野康郎(2014) 日本の水草, 326pp. 文一総合出版, 東京。

## ■ 県内での生育地域・生育環境

平野部及び丘陵部の池沼や溜池。

## ■ 存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足。

(執筆:國井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

キツネノマゴ科

# ハグロソウ

*Peristrophe japonica* (Thunb.) Bremek. var. *subrotunda* (Matsuda) Murata et Terao

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者): 澤田達也



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。

### 概要

日陰の林縁や林内などに生える多年草で、高さ20—50cmになる。葉柄は2—10mmで、葉身は卵状長楕円形から広披針形で、先端は鈍く、基部は鋭形で、長さ2—10cm、幅1—2.5cmで全縁。花は9—10月、枝先や上部の葉腋に5—15mmの花枝を出して、それぞれ2—3の花があるが通常1花を咲かせる。花冠は淡紅紫色で、長さ2cmで見かけ上の上唇は狭卵形で反曲し、同下唇は楕円形である。果実は長さ9—12mmとなる。

国内では本州(宮城県以南)から九州に見られ、朝鮮半島南部・台湾・中国(中部)に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育が報告されている。丘陵域の林下などに点々とまれに分布している。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# ヤマザトタンポポ

*Taraxacum arakii* Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は少なくなり、限られてきている。生育地での個体数も多くはない。

### 概要

里地から山地の日当たりのよい草地に生える多年草。長さ20cmになる倒楕円状披針形で羽状に中裂する葉を多数根生して、葉腋から花茎を数本立てて、先に1個ずつ頭花をつける。頭花は直径約3cmで、総苞は花時に長さ2cm、幅1cm。外片は内片の半長に達し、長楕円状披針形で、縁は膜質半透明で、先端部に小角突起がある。本州の近畿地方、中国地方から四国にかけて分布するとされる。

#### 参考文献

井上雅仁・松原勝志・安部祐史・齋藤正幸(2023) タンポポ調査・西日本2020で確認された島根県のタンポポ、島根県立三瓶自然館研究報告 21: 39-50.  
 国立科学博物館(2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島を除く県内全域で確認されている。里地から山地にかけて、耕作地周辺及び山際の草地に生える。耕作地周辺の草地では近年、生育地が消滅した場が多い。

### 存続を脅かす原因

土地区画整理、除草剤散布など人為による生育地破壊や個体群消滅。  
 (執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

ミツガシワ科

## ガガブタ

*Nymphoides indica* (L.) O. Kuntze

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):—

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## ■ 選定理由

減反あるいは圃場整備により、主要な生育場所である溜池の保全・管理が年々行われなくなっている。

## ■ 概要

本州以西の池沼や溜池に群生する多年生の浮葉植物。塊状の根茎から葉柄あるいは茎を伸ばし、ハート型の浮葉を水面に展開する。浮葉の大きさは大小さまざまで大きなものは直径20cmを越える。浮葉の表面は淡緑色で全縁、裏面は淡紫色を帯び粒状の腺点が目立つ。花は葉柄の基部に束生し、5裂する花冠は白色で径約15mm、各花弁の内側に白毛を多数生じる。秋季にバナナの房状の特徴ある殖芽を形成して、冬を越す。

## ● 参考文献

角野康郎 (2014) 日本の水草。326pp. 文一総合出版, 東京。

## ■ 県内での生育地域・生育環境

県東部、県中部の池沼や溜池。

## ■ 存続を脅かす原因

農業形態の変化による溜池の管理不足。

(執筆: 国井 秀伸)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

## ヒロハヤマヨモギ

*Artemisia stolonifera* (Maxim.) Kom.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



## ■ 選定理由

県内での生育地はややまれで、生育地での個体数も多くはない。

## ■ 概要

山地の草原や林縁の草地に生える草丈約50cmの多年草。葉は多くは卵状長楕円形で長さ10cm、幅5cm前後で羽状に浅く裂けて、互生する。葉の裏は綿毛があって白色である。花は夏から秋にかけて咲く。茎の上部に多くの枝を出し、多くの頭花をつける。頭花は小さく、長さ4—5mm、幅3—4mm、鐘球形である。国内では本州の中国地方から北九州にかけて分布し、さらに朝鮮半島、中国東北部に続く分布域をもつ。

## ● 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット。https://science-net.kahaku.go.jp/, (2025年10月30日閲覧)  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49。

## ■ 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(雲南市、奥出雲町、飯南町)、県中部(大田市)などの中国山地沿いの山地に点在する。やや乾いた草原状地に生え、ときに山間の耕作地の周りでの草刈場などにも生育地が存在する。

## ■ 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化、草刈場などは耕作地の管理放棄による生育地の樹林化から生育地が消滅している。

(執筆: 井上 雅仁・松村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# イナカギク (ヤマシロギク)

*Aster semiamplexicaulis* (Makino) Makino ex Koidz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):青木充之



### 選定理由

生育地は多くなく、個体数もわずかである。また、遷移等で被陰されて生息できなくなりやすい環境にある。

### 概要

山林の縁や斜面に生える多年草で、匍匐する長い地下茎をもつ。茎は30—100cmになり、長軟毛を密生する。茎の下部や中部の葉は長楕円状披針形で下から3分の1のところから急に狭くなり、長さ6—12cm、幅3—5cm、先端は鋭尖頭、基部は耳状に茎を抱く。花は9—11月で、散房花序で、頭花は径2cm、柄は7—16mm、総苞は線形で3裂、舌状花は白色。瘦果は倒卵状長楕円形で長さ2.5mm、冠毛は3.5—4mmになる。本州(茨城県および東海地方以西)・四国・九州に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで点々と生育が報告されている。丘陵域の岩角地にまれな生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# ダルマガク

*Aster spathulifolius* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地はやや限られていて、生育地での個体数も多くはない。

### 概要

海岸の岩上、岩壁に生える夏緑の多年草。草丈は30cmばかりになり、根際で枝分れがあって、葉は枝の先に多くが束生する。葉は長さ10cm、幅3—5cmばかりの倒卵状楕円形で基部に向かい狭くなり、両面に軟毛が密生する。花は秋に咲き、頭花は径4—5cmで、舌状花は1列で青紫色～白色。筒状花冠は7mmばかり、果実は長さ3—4mmで、冠毛は不同長である。九州から日本海側海岸に分布し、山口県から島根県、さらに朝鮮半島、ウスリーにかけて分布域がある。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部に若干の生育が見られ、飛んで隠岐諸島全域に生育地が知られている。海岸の風衝崖地や露岩上に生える。

### 存続を脅かす原因

採取による個体群の減少が心配される。

(執筆:柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# サンインギク

*Dendranthema aphrodite* (Kitam.) Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

基準標本産地

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

他種との交雑の危険性がある。

### 概要

頭花は径3—4.5cmとなり、総苞片は長楕円形から線形となる。舌状花は原記載では白花も記載されているが、これは色変わりか交雑によるものと考えられ、通常は黄色。シマカンギクは4倍体で葉や頭花の大きさがひとまわり小さく、頭花も径2.5cm程度で、総苞片も卵形となる。また茎も細い。分布は島根県出雲市多伎町を東限とし、海岸部を山口県北部まで連続して分布する。従来産地とされてきた富山県氷見市のものはサンインギクとイエギクの交雑群と考えられる。

### 参考文献

いがりまさし (2007) 山溪ハンディ図鑑11 日本の野菊。山と溪谷社 279pp.  
 北村四郎 (1934) 家菊の原種に関する植物分類学者の見解。植物分類地理3:201-213.  
 中田政司・竹内 基 (1998) 氷見市大境産サンインギク個体群の変異。富山県中央植物園研究報告3:1-16  
 大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 柳浦正夫 (2009) 島根県のサンインギクの分布と形態比較。島根植物研究会会報16:9-13 島根植物研究会

### 県内での生育地域・生育環境

出雲市多伎町を東限として山口県の県境までの海岸部からやや内陸部の草地や岩角地に生育する。人里に近い場所でイエギクとの交雑による多様な形態をもった交雑群も見られるが、それ以外のほとんどが安定した形質をもっている。

### 存続を脅かす原因

イエギクとの浸透交雑。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# オッタチカンギク

*Dendranthema indicum* (L.) Des Moulins var. *maruyamanum* Kitamura

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

島根県固有種、基準標本産地

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):—



### 選定理由

島根県固有の植物で、生育地の範囲が狭く限られたものである。

### 概要

草丈は多くが30—50cm程で、葉は卵形で長さ3—4cm、幅1—2cmで、3~5中裂して、互生する。花は秋に咲き、茎の上部でゆるい散房状に枝を分けた先に径2cmばかりの頭花をつける。舌状花は黄色である。島根県の固有種である。

### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則 (2005) 島根県の種子植物相。島根県立三瓶自然館研究報告(3):1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部の一部で狭い範囲に生育する。多くは岩上、岩質の崖地などの有機物ややや堆積した立地に生えている。

### 存続を脅かす原因

遷移による樹林化、道路拡幅工事などによる生育地の破壊、園芸上での採取。

(執筆:柳浦 正夫・松村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# ハマベノギク

*Heteropappus arenarius* Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数は多くはない。

### 概要

海岸の砂地に生える越年草、時に多年草。植物体は根生葉があって、倒狭卵形で長さ5cm、幅1.5cmばかりで基部は細くなり長さ1.5-3cm程の葉柄部分がある。茎は基部で分枝して四方に枝をだし、先で立ち上がり、頭花をつける。草丈は20cm程のものである。花は夏から秋にかけて咲き、頭花は1個つき、径3-4cmばかりで淡青紫色の舌状花をつける。舌状花の冠毛は短く、筒状花のものは長い。本州(富山県以西)・九州(北西部・南部)・種子島

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部と中部に生育地が点在する。富山県まで分布するが、東部では確認されていない。海岸の砂浜から附近の岩上にも生える。

### 存続を脅かす原因

強風による生育地の破壊、海岸における道路等の整備事業等における生育地の破壊。

(執筆: 柳浦 正夫・松村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# オタカラコウ

*Ligularia fischeri* (Ledeb.) Turcz.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 青木充之

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



### 選定理由

生息地も個体数も少ない。遷移等環境の変化しやすいところで個体数の減少が心配される。

### 概要

山地の水流や湿地に生える多年草で、茎は1-2mになる。根生葉の葉身は腎心形、長さ30cm、幅40cmほどになり、長い葉柄がある。茎葉は3枚程度で上部の葉は小さい。花は7-10月、総状花序の先端に頭花が上向きで咲く。総苞は筒状の鐘形、幅2-4cm、舌状花は5-9個で舌状の部分は黄色。冠毛は長さ6-10mmで花冠より短く、褐色または紫褐色となる。国内では本州(山形県以南)~九州に分布し、サハリン・シベリア東部・中国に分布する。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部から西部まで生育地は点在する。山域の湿地や水流脇に群生して生育するのが見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移。

(執筆: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# ハンカイソウ

*Ligularia japonica* (Thunb.) Less.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。環境が変わりやすく個体数の減少が心配される。

### 概要

山地の湿った草原や林間の草地に生育する多年草で、茎は60—100cmになる。根生葉の葉身は掌状に分裂して、長さ幅ともに30cmほどになる。茎葉は3枚程度で柄は広い鞘となり、上部の葉は小さい。花は6—8月、散房花序の先端に2—8個つく。頭花は径10mmほどで、舌状花は10個ほどで、舌状の部分は黄色。冠毛は長さ6—8mmで赤褐色となる。国内では本州(静岡県以南)~九州に分布し、朝鮮半島・台湾・中国・ミャンマー・インドに分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部と西部に生育が見られる。東部では山域の湿原や、湿った林床に生育しているが、西部では海岸部の水がしたたるような崖部に生育しており、生息環境がとても異なるので興味深く思われる。

### 存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# ニシノヤマタイミンガサ

*Parasenecio yatabei* (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. *occidentalis* (F. Maek. ex Kitam.) H.Koyama

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。

### 概要

冷温帯の夏緑林の林床に生える多年草で、変種の関係とされるヤマタイミンガサに対し、総苞片が3個で、小花が2—4個と少なく、瘦果は長さ3.5—4mmと小さいので、花序がぼっそりとして見える。本州(岐阜県・愛知県・紀伊半島・中国地方)・四国・九州に分布するとされる。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 澤江・篠原・柳浦(2003) 広高谷で見られた植物、島根植物研究会会報3: 3-4  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

西部から生育が報告されている。山域の谷間にまれな生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移、森林伐採、刈り取り。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# ヤマタイミンガサ

*Parasenecio yatabei* (Matsum. et Koidz.) H.Koyama var. yatabei

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。

### 概要

冷温帯の夏緑林の林床に生える多年草で、高さ60—90cmになる。地下に匍匐枝を出し、先に新苗をつける。茎は直立し、多細胞の縮毛がある。下部の葉身は円形で、長さ17—24cm、幅30—35cmで、掌状に9—10中裂し、裂片の先端は鋭頭で、基部は深い心形となる。葉柄は長さ17—19cmと長く、翼はなく、基部には小型の耳がある。中部の葉は小型になる。花は7—9月に、頭花は円錐花序となり、総苞片は5枚で小花は5—6個となる。花冠は長さ8.5—10mmとなる。本州(岩手県~岐阜県・愛知県・紀伊半島・隠岐島・中国地方)・四国(徳島県・高知県)に分布する。

#### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物Ⅴ」,474pp.株式会社平凡社,東京  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)から報告されている。同地域の山城の谷間に群生してみられる。

### 存続を脅かす原因

遷移、刈り取り。

(執筆:柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# ホクチアザミ

*Saussurea gracilis* Maxim.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-

撮影者(提供者):島根県立三瓶自然館



### 選定理由

県内での生育地は限られており、生育地での個体数も少ない。

### 概要

日当たりの良い山地の乾いた草原に生える多年草である。草丈は茎を伸ばすと10—30cmになる。根元と下部の葉は、長さ6—11cmの長3角形で、長い葉柄がある。葉の裏面には綿毛が密生し、白色となる。花期は8—10月で、総苞は紫色を帯びるか緑色である。火起こしの着火用の火口(ホクチ)に用いられるような綿毛が葉の裏に多いことが、名の由来とされる。本州(長野県・愛知県以西)から九州、朝鮮半島に分布する。

#### 参考文献

大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017)改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科, 760pp. 平凡社, 東京.  
 秋村喜則(2005) 島根県の種子植物相, 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、県東部(飯南町)、県中部(大田市)、県西部(浜田市)で確認されている。生育環境は、山地の稜線沿いなど、明るい風衝草原などである。

### 存続を脅かす原因

遷移の進行による草原の灌木化、樹林化、草原でのササ類の繁茂。

(執筆:井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

キク科

# オキタンポポ

*Taraxacum maruyamanum* Kitam.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

島根県固有種(隠岐固有種)

環境省カテゴリー

-



### 選定理由

隠岐固有の植物であり、県内および国内での生育地は隠岐諸島のみと限られている。

### 概要

隠岐諸島の人里や路傍、海岸などに生える多年草である。草丈は花茎を伸ばすと10—50cmになる。ごく短い茎に根出葉をつけ、ロゼットを形成する。葉は、全縁のものから羽状深裂のものまで多形となる。花期は3—5月で、茎の先に直径4—5cmの頭花をひとつつける。総苞外片は直立ときにやや開出、総苞の2/3~3/4と長い。先端の角状突起はないか小さい。島根県隠岐諸島に分布し、同島の固有である。

### 参考文献

井上雅仁・松原勝志・安部祐史・齋藤正幸(2023) タンポポ調査・西日本2020 で確認された島根県のタンポポ。島根県立三瓶自然館研究報告 21: 39-50。  
大橋広好・門田裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉浩司編(2017) 改訂新版 日本の野生植物 5 ヒルガオ科~スイカズラ科。760pp. 平凡社。東京。

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、西ノ島町、海士町、知夫村)で確認されている。生育環境は、路傍、畦畔、放牧地などの草地など、明るく開けた場所には広くみられる。

### 存続を脅かす原因

管理放棄による畦畔や放牧地などの灌木化、樹林化、外来タンポポの侵入による交雑。

(執筆者: 井上 雅仁)

## 準絶滅危惧 (NT)

セリ科

# ハマボウフウ

*Glehnia littoralis* F.Schmidt ex Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
-	-	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 柳浦正夫

島根県固有評価

-

環境省カテゴリー

-



### 選定理由

生育地が限定され、個体数の減少が心配される。

### 概要

砂質海岸に生える多年草で、茎は多毛で花期には伸びて5—40cmになる。葉は厚く、長さ2—5cm、幅1—3cm、小葉や裂片は広くて先は丸く、鋸歯がある。花は6—7月で、複散形花序となり多数の花をつくる。花弁は白色で、果実は広楕円形で、多肉で隆条は太く、油点は細くて数多い。国内では北海道~琉球に分布し、千島列島・サハリン・アムール・ウスリー・朝鮮半島に広く見られる。

### 参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社。東京  
松村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐を含めて、東部から西部までの砂質海岸に広く生育する。食べられることが広く知られているので、葉の採取などはかなり行われているのではないだろうか。人為的な影響が心配される。

### 存続を脅かす原因

採取、また植栽についても人為的な生育となること、地域個体群の遺伝的攪乱などが心配される。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ガマズミ科

# チョウジガマズミ

*Viburnum carlesii* Hemsl. var. *carlesii*

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



### 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も多くはない。全国的にも分布地は限られている。

### 概要

夏緑性の低木で高さ2—3m、葉は楕円形から広楕円形で長さ10cm、幅7—8cmで、対生する。花は春に咲き、枝先に集散花序をなして約20花の小花がつく。蕾は紅色を帯びて美しい。花冠は筒状で、先端は5裂し、開花時には外に開き白色である。花には強い芳香があって特徴的である。果実は楕円形、長さ約1cm、初め赤く熟れ後に黒く熟れる。

### 参考文献

国立科学博物館 (2018) サイエンスミュージアムネット. <https://science-net.kahaku.go.jp/>. (2025年10月30日閲覧)  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 3: 1-49.  
 丹後亜興 (2021) 隠岐の北限植物. 隠岐の文化財 38: 30-50.

### 県内での生育地域・生育環境

県内での分布は、隠岐諸島(隠岐の島町、海士町)、県東部(出雲市)に知られている。県東部での生育地はきわめてまれである。生育地の多くは海岸または海岸に近い岩場である。出雲部ではやや内陸の岩場に生育地がある。

### 存続を脅かす原因

遷移による樹林化が心配される。

(執筆者: 井上 雅仁・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

スイカズラ科

# オオツクバネウツギ

*Abelia tetrasepala* (Koidz.) H.Hara et S.Kuros.

### カテゴリー区分

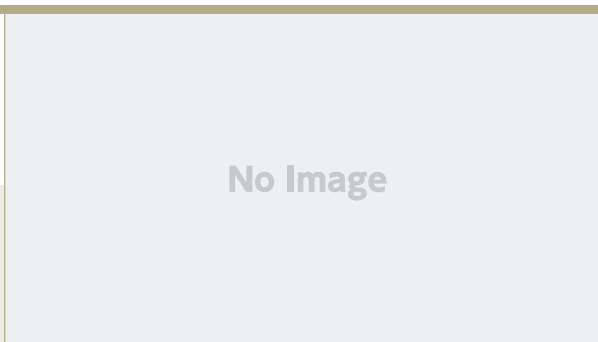
2004	2013/2014	2026
—	—	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

生育地も個体数も少ない。

### 概要

落葉低木で、高さ2—3mになり、密に分枝する。若い枝は無毛で、しばしば赤褐色となる。葉は広卵形から披針状卵形で長さ3—6cm、幅1.5—3.5cm、先端は鋭形で、基部は円形となる。ほぼ全縁となる。側脈3—4対で斜上し、葉柄は1—3mm。花期は4—5月で、短い枝の先に2個ずつつき、無柄、萼は5個で、4枚は8—15mm。背側の1個はほかより小さく、長さ2—5mmになる。花冠上部長さ3—4mmで黄白色、下部は細く筒状で10—15mm、上唇は2裂し、5—8mm、下唇は3裂し、8—15mmになる。瘦果は線形で10—15mmになる。

### 参考文献

大橋広好他 (2017) 「改訂新版 日本の野生植物V」. 474pp. 株式会社平凡社. 東京  
 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

### 県内での生育地域・生育環境

東部と中部から報告されている。同地域のやや山域の林縁などにまれな生育が見られる。

### 存続を脅かす原因

遷移、伐採。

(執筆者: 柳浦 正夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

スイカズラ科

## ナベナ

*Dipsacus japonicus* Miq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 島根県立三瓶自然館

島根県固有評価

—

環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内での生育地はまれで、生育地での個体数もきわめて少ない。

## 概要

日当たりのよい山地に生え、茎の高さは1mばかりになるやや大型の越年草。葉は頭大羽状に全裂し、対生する。植物体全体に刺状の剛毛が生える。花は夏に咲く。茎の上部に枝を多く分けて、先に長さ2-3cmの頭状花序に花をつける。総苞片は線形で反り返る。小花の花冠は長さ5-6mmで先は4裂する。国内では本州~九州に分布し、朝鮮半島・中国にも分布している。

## ●参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部から西部の山域から丘陵域にかけて点々と生育が報告されている。山地の林縁部や川辺りなどの草地に生育地がまれに存在する。また、時に山中での崩土、崩壊地に群生するのが見られることもあるが、長年にわたって生育地が存続することはまれなようで、点々と生育しやすいところに移り変わる。

## 存続を脅かす原因

生育地での遷移による環境変化、人による生育地破壊。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

スイカズラ科

## ハマニンドウ

*Lonicera affinis* Hook. fil. et Arn.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): —

島根県固有評価

分布限界種(北限)

環境省カテゴリー

—



## 選定理由

県内での生育地は限られていて、生育地での個体数も限られている。

## 概要

常緑の蔓性木本植物で、分枝して周囲の樹種に絡まり高く樹上に伸び上がる。葉は多くは長さ5-10cm、幅2-4cmばかり、楕円形に対生する。葉裏は粉白のものが多く、通常、葉は無毛だが、徒長枝の葉には長毛が見られることがある。花は初夏に咲き、葉腋に長さ5cmばかりの総状花序をつけて、10花程をつける。花冠は長さ3-4cmで、筒状で中程で2裂し、上唇は4裂し、はじめ白色で後に黄色に変色する。果実は黒く熟れる。国内では本州(中国地方)・四国・九州・南西諸島に分布する。

## ●参考文献

大橋広好他(2017)「改訂新版 日本の野生植物V」.474pp. 株式会社平凡社,東京  
 杵村喜則(2005) 島根県の種子植物相、島根県立三瓶自然館研究報告(3): 1-49 島根県立三瓶自然館

## 県内での生育地域・生育環境

東部と西部から記録されている。海岸沿いの場に生育地があり、東部での産地は少なく、分布の北限となる。

## 存続を脅かす原因

樹林伐開、諸開発工事。

(執筆者: 柳浦 正夫・杵村 喜則)

## 準絶滅危惧 (NT)

スイカズラ科

# カノコソウ

*Valeriana fauriei* Briq.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

—
---

撮影者(提供者):公益財団法人ホシザキグリーン財団



### 選定理由

県内での生育地はまれな状態となっている。生育地での個体数も多くはない。

### 概要

山地の少しばかり湿り気のある草地に生える多年草で草丈は40—80cm。茎の下部につく葉は長い葉柄があって2—3対に羽状の小葉があり、上部では柄が短く羽状に全裂しない。花は春から初夏にかけて咲き、茎の上部の集散花序に小花を多数つける。花冠は径3mmで淡紅色である。北海道から本州、四国、九州に分布し、朝鮮半島、中国に分布する。

### 参考文献

井上雅仁(編)(2014) 杵村喜則氏収集植物標本目録(II), 207pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田。  
井上雅仁(編)(2020) 杵村喜則氏収集植物標本目録(III), 205pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 大田。  
三浦憲人・森定伸・宇田川卓義・長谷研次(2015) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園における植物相調査(2013-2014), ホシザキグリーン財団研究報告, (18):21-39。  
三浦憲人(2015) 島根県産植物の染色体観察記録(2), ホシザキグリーン財団研究報告, (18): 273-276。  
三浦憲人・森定伸・岡井陽平(2022) 島根県雲南市木次町ふるさと尺の内公園における植物相調査(2019), ホシザキグリーン財団研究報告特別号, (31):39-61。

### 県内での生育地域・生育環境

隠岐(島後)や県東部の丘陵域で確認されているが、近年、これらの生育地が消滅しつつあって、かなりまれな状態となっている。以前、林縁路傍などのやや陰湿な地に生育していた個体群などは、現在ほとんど消滅してしまっている。(安来市広瀬町下山佐、松江市大野町、松江市島根町、松江市八雲町、松江市玉湯町、隠岐郡布施村布施、隠岐郡五箇村南方長尾田、雲南市加茂町近松)

### 存続を脅かす原因

生育地での遷移、樹林伐開などによる環境変化。  
(執筆: 三浦 憲人・杵村 喜則)

## 情報不足 (DD)

ヒカゲノカズラ科

# アスヒカズラ

*Lycopodium complanatum* L.

カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧I類 (CR+EN)	情報不足 (DD)

島根県固有評価

—
---

環境省カテゴリー

—
---

撮影者(提供者):柳浦正夫



### 選定理由

県内での生育地はきわめて局地的であり、個体数も少なく、離れた分布を示す。

### 概要

常緑性のシダで、地上生で、匍匐茎は地中または地上を長く這い、まばらに分岐する。直立茎は斜上または直立し、高さ10—30cmになり、扇状に分岐する。鱗片葉は鮮緑色で、4列に並び、先端は棘状。背葉は線形で圧着し、側葉は広く、開出する。孢子嚢穂は1—3cmで円柱形。3—10cmの長さの柄に1—5個つく。国内では北海道や本州中部以北には多いが、本州西部には少なく、滋賀、兵庫、鳥取、島根、広島、岡山などの限られた場所に点在し、徳島県でも生育する。ただ、本州西部での生育は、海老原(2016)では『兵庫県・岡山県・島根県では、法

### 参考文献

海老原 淳(2016) 『日本産シダ植物標準図鑑1』, 475pp. 株式会社学研プラス, 東京  
岩槻邦男(1992) 『日本の野生植物シダ』, 311pp. 平凡社, 東京  
澤江 宏・篠原良夫(2004) 益田市に自生するシダ植物(5), 島根植物研究会会報7: 2-3  
杵村喜則(1997) 島根のシダ植物相, ホシザキグリーン財団研究報告1: 221-232  
柳浦正夫(2010) 植物の分布・観察報告(39)アスヒカズラ *Lycopodium complanatum* L. 島根植物研究会会報18: 8-12

面への吹きつけ種子に混じって移入したと推定される個体群が、比較的低標高で見られている。』としている。国外では北半球の温帯に広く分布する。

### 県内での生育地域・生育環境

県内では2000年代に西部と東部に分布が確認された。ともに切り開かれた道路脇の斜面で少数生育していた。西部の産地には今も生育しているが、東部では2016年には見当たらなくなっている。しかし、県内の産地では吹きつけ植物は見られないので、シダ植物でしばしば起こる孢子が長距離移動して離れた場所に生育するようになったとも考えられる。今回は情報不足としておく。

### 存続を脅かす原因

遷移。  
(執筆: 柳浦 正夫)